

# 令和元年度 自己評価報告書

(専門学校等評価基準 Ver.4.0 準拠版)

令和2年7月

I G L 医療福祉専門学校

# 目 次

教育目標と本年度の重点目標の評価.....	1	基準5 学生支援.....	37
基準1 教育理念・目的・育成人材像.....	2	5-16 就職等進路.....	38
1-1 教育理念・目的・育成人材像.....	3	5-17 中途退学への対応.....	41
基準2 学校運営.....	4	5-18 学生相談.....	44
2-2 運営方針.....	5	5-19 学生生活.....	47
2-3 事業計画.....	6	5-20 保護者との連携.....	50
2-4 運営組織.....	7	5-21 卒業生・社会人.....	52
2-5 人事・給与制度.....	8	基準6 教育環境.....	55
2-6 意思決定システム.....	9	6-22 施設・設備等.....	56
2-7 情報システム.....	10	6-23 学外実習・インターンシップ等.....	57
基準3 教育活動.....	11	6-24 防災・安全管理.....	58
3-8 目標の設定.....	12	基準7 学生の募集と受入れ.....	59
3-9 教育方法・評価等.....	15	7-25 学生募集活動は、適切に行われているか.....	60
3-10 成績評価・単位認定等.....	20	7-26 入学選考.....	61
3-11 資格・免許の取得の指導體制.....	22	7-27 学納金.....	62
3-12 教員・教員組織.....	25	基準8 財務.....	63
基準4 学修成果.....	29	8-28 財務基盤.....	64
4-13 就職率.....	30	8-29 予算・収支計画.....	65
4-14 資格・免許の取得率.....	32	8-30 監査.....	66
4-15 卒業生の社会的評価.....	35	8-31 財務情報の公開.....	67

<b>基準 9 法令等の遵守</b> .....	68
9-32 関係法令、設置基準等の遵守.....	69
9-33 個人情報保護.....	70
9-34 学校評価.....	71
9-35 教育情報の公開.....	72
<b>基準 10 社会貢献・地域貢献</b> .....	73
10-36 社会貢献・地域貢献.....	74
10-37 ボランティア活動.....	75

# 教育目標と本年度の重点目標の評価

学校の教育理念・目標	令和元年度重点目標	重点目標・計画の達成状況	課題と解決方策
<p>教育理念：「隣人愛」～自分を愛するようにあなたの隣人を愛しなさい～</p> <p>「隣人愛」とは、苦しみを持つ人に対して、その人と自分との過去の関わりや、国籍、思想の違いを超えて、その人の必要に応える行為を行おうとすることです。相手を受け入れ、自分を愛するように、他者を愛することで、自らが苦しみを持つ人にとっての「隣人」になろうとする愛を持ち、心からの奉仕ができる人間を育てたいという願いを込めて、この言葉を教育理念として掲げています。</p> <p>校訓：「自信と謙遜」～オンリーワン。世界中で自分という存在はただ一人であって、かけがえのない命なのです～</p> <p>真に自分に自信がある人は、他人に対し寛容となり、相手の立場を受容し譲ることもでき、謙遜の徳を持って世の光として輝き、奉仕に徹することが可能となります。</p> <p>学生の皆さんは、「自分という存在はただ一人」であって、それほどかけがえのない生命をこの世に授けられているとの認識を持って、学びを通じて成長して貰いたいとの期待が込められている校訓です。</p> <p>目標：教育理念及び校訓をもとに、職業教育・言語教育を通して、実践的な知識・技能を有する人材を育成し、社会に信頼される学校を目指す。</p>	<p>永続的な存続を求められている専門学校は、適正な収益を上げる必要がある。</p> <p>そのために、質の高い教育という名のサービスを学生や保護者に、または就職先企業等に提供し、学生満足度を高め、より収益に繋げていく。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 人の生命や健康を携わる職業人を育てるに相応しい学校</li> <li>(2) 地域に信頼される良き学校</li> <li>(3) 従来型の医療福祉ビジネスを破壊する集団</li> <li>(4) 新たな付加価値を創造する集団</li> <li>(5) 個々が明るく元気に躍動し、個々人が成長する学校</li> <li>(6) ステークホルダーと社会保障向けの新たなビジネス創出</li> <li>(7) 意味のある失敗は許容、動かないこと・無意味な失敗を排除する学校</li> </ol>	<p>全教職員が学生募集活動目標(医療福祉系4学科：7割)に向かい、広報活動に取り組んだが、数値目標に達しなかった。</p> <p>各部門で予算管理をする事で、教職員のコスト意識が高まった。</p> <p>◎ 国家試験・日本語能力試験結果</p> <p>【国家試験合格率】 ※新卒</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 介護福祉学科 94.1%</li> <li>■ 鍼灸学科 はり師 : 100%</li> <li style="padding-left: 20px;">きゅう師 : 100%</li> <li>■ 柔整学科 76.2%</li> <li>■ 口腔保健学科 90.3%</li> </ul> <p>【日本語能力試験】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 日本語学科 N2-8名、N3-27名合格</li> <li>■ 国際教養コミュニケーション学科 N1-1名、N2-13名合格</li> </ul>	<p>定員未充足による非常に厳しい経営状況が続いており、安定的な財源確保のためにも、学生確保に一丸となって取り組まなければならない。</p> <p>経営目標の達成のため、経営企画室を主体とした事業運営を展開していく。</p> <p>限られた財源を有効活用するため、事業の優先度・重要度を見極め、学生に対する良質な学習環境の提供を継続的に行うとともに、学修成果の向上を果たすため、全教職員が今一度団結し、学生満足度を高め、魅力あふれる学校創りに邁進していく。</p> <p>経験や主観での議論や施策ではなく、クリティカルな要素での判断基準を身に付け古いスタイルでの学校運営から脱皮する。</p>

## 基準 1 教育理念・目的・育成人材像

大項目	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>平成 5 年（1993 年）IGL 健康福祉専門学校を創設。介護福祉士の養成を始めた。</p> <p>平成 13 年（2001 年）IGL 医療専門学校を新設。はり師・きゅう師、柔道整復師の養成を始めた。平成 19 年（2007 年）、IGL 医療専門学校に歯科衛生士養成を行う口腔保健学科を新たに設けた。</p> <p>平成 21 年（2009 年）10 月、IGL 健康福祉専門学校に日本語学科を新設した。</p> <p>近年、定員割れが続き、将来的に少子化傾向が予想されることを背景に、平成 26 年（2014 年）両校が統合した。</p> <p>介護福祉学科、日本語学科の IGL 健康福祉専門学校と、医療系の鍼灸学科、柔整学科、口腔保健学科の IGL 医療専門学校は、別々の道を歩んできたため、それぞれ固有の性格を有していた。固有の性格を生かし、その良さを発揮させながら統合するためには、困難な状況が生ずる事が予想された。校長のリーダーシップのもと、教職員が「隣人愛」の精神を体現して、活力ある新たな学校を創造する課題に直面している。</p> <p>この課題解決のために、法人本部が専門学校経営実態を把握し、5 年間の中長期基本計画（2018 年度～2022 年度）を策定した。</p>	<p>教育理念・校訓に基づく、深い人間愛に立脚した医療・福祉のスペシャリスト養成に向けて、性質の異なる 6 学科ならびに IGL グループ内の各施設と密な連携を図り、他校にはない本校独自の実践的かつ総合的な教育をきめ細かく行っていく。</p>

最終更新日付	2020 年 7 月 31 日	記載責任者	本廣 淳範
--------	-----------------	-------	-------

## 1-1 教育理念・目的・育成人材像

小項目	※点検進捗	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
1-1-1 教育理念・目的・育成人材像は、定められているか	4	理念・目的・育成人材像について明確に定め、周知、徹底することは重要であると考えている。	学則・校訓等により学校の目標を明確にし、全教職員の共通認識としている。	特になし。	学則 学校 HP 学生便覧 学校案内パンフレット 事業計画
1-1-2 育成人材像は専門分野に関連する業界等の人材ニーズに適合しているか	4	職業教育・言語教育を通して、実践的な知識・技能を有する人材育成を行うことは重要であると考えている。	業界等の協力により、校外実習を実施している。教育課程編成委員会で業界等のニーズを把握してシラバスに反映している。	特になし。	学生便覧 シラバス
1-1-3 教育理念等の達成に向け特色ある教育活動に取り組んでいるか	3	学生の実態を把握して、医療・福祉等の実践力を養う教育課程を編成することは重要であると考えている。	各学科で独自の教育内容を教材化し、シラバスに反映させ、特色ある教育活動を学生募集に生かしている。	業界等のニーズに即応した教育目標を立て、実践していく。	シラバス
1-1-4 社会のニーズ等を踏まえた将来構想を抱いているか	3	変化が激しい社会のニーズ等を的確に捉え、将来構想を計画することは重要であると考えている。	『顧客に求め続けられるために何をなすべきか』の原点に立ち返り、永続的に存続できる企業体を作り上げていく土台の一年と捉える。	現代に合った顧客に必要とされる情報の発信を行い、新たな付加価値を創造していく。	事業計画 中長期基本計画

※点検進捗 4：優れている 3：適切である 2：やや不適切 1：改善が必要

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
教育理念「隣人愛」・校訓「自信と謙遜」を掲げている。学校教育を通じて、普遍的に生きる知恵を身につける取り組み等を実践している。	専門的な医療福祉関係の職業人・国際的人材として学生を世に送り出し、社会に信頼される学校を目指していく。

最終更新日付	2020年7月31日	記載責任者	本廣 淳範
--------	------------	-------	-------

## 基準 2 学校運営

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>学校法人 IGL 学園の経営方針に基づき、平成 26 年（2014 年）4 月に IGL 健康福祉専門学校と IGL 医療専門学校が統合した。定員割れを続けてきた IGL 学園は統合を契機として、再活性化を図っている。学則に定めた学校の目的を達成するために、5 年間の中長期基本計画（2018 年度～2022 年度）を策定した。</p> <p>中長期基本計画実現に向け、法人本部と学校が密な連携を取るため、2018 年度に本部経営企画室を新設し、永続的に存続できる体制を作り上げていく土台の一年とする。</p>	<p>法人本部が経営改善の具体的指針として、これまでの中期計画に変わり、5 年間の中長期基本計画（2018 年度～2022 年度）を策定し、全教職員が経営の現状把握ならびに本校の将来展望を共有している。</p> <p>経営改善の具体指針として「財務」「顧客」「業務プロセス」「学習と成長」の 4 つの視点から重要成功要因を分析・抽出した。</p> <p>各学科の年度ごとの入学者数目標、収支目標を明確化し、達成に向けた具体的な改善行動の方針を定めた。</p>

最終更新日付	2020 年 7 月 31 日	記載責任者	本廣 淳範
--------	-----------------	-------	-------

## 2-2 運営方針

小項目	※点検 進捗	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
2-2-1 教育理念等に沿った運営方針を定めているか	4	学則に定めた目的に沿った教育目標に基づき、事業計画を定めている。	各学科長は教育目標に基づき、教育計画等を作成している。事業計画は理事長の承認を得て、全教職員に周知している。	学科長・所属長を中心に、全職員が積極的な学校経営に参画する。	学則 事業計画 中長期基本計画

※点検進捗 4：優れている 3：適切である 2：やや不適切 1：改善が必要

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>運営方針については、全教職員に周知徹底すること、そして、共感を得ることが重要と考えている。</p> <p>社会・業界等のニーズに即応した事業計画の策定に今後も努めていく。</p>	<p>収支実態と連動した中長期基本計画に基づき、事業全体の目標・予実管理、業務の進捗管理を各部門長の責任において行う。</p>

最終更新日付	2020年7月31日	記載責任者	本廣 淳範
--------	------------	-------	-------

## 2-3 事業計画

小項目	※点検 進捗	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
2-3-1 教育理念等を実現・達成するための事業計画を定めているか	4	理念の実現、教育目標の達成のために事業計画を適切に実行することは重要であると考えている。	中長期基本計画、事業計画を校務運営会議で作成し、理事長の承認を得ている。	中長期基本計画実現のための単年度事業計画を策定している。適正な収益を上げるため、実現に向けて、各学科が具体的な戦略を立案、実行していく。	事業計画 中長期基本計画

※点検進捗 4：優れている 3：適切である 2：やや不適切 1：改善が必要

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
理事会において前年度の事業報告及び本年度の事業計画の承認を得て、適正に事業を進めている。	中長期基本計画実現のための単年度事業計画を策定した。その実現のために、各学科・部門ごとに入学者数目標、収支目標を明確化し、達成に向けた具体的な改善行動の方針を定め、教職員一丸となって具現化していく。

最終更新日付	2020年7月31日	記載責任者	本廣 淳範
--------	------------	-------	-------

## 2-4 運営組織

小項目	※点検進捗	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
2-4-1 設置法人は組織運営を適切に行っているか	3	寄付行為に基づき、適正に行うことを方針としている。	理事会、評議員会は寄付行為に基づき適切に開催され、必要な審議を行い、議事録も作成されている。	特になし。	校務運営組織図 理事・評議員・監事名簿 法人寄付行為
2-4-2 学校運営のための組織を整備しているか	3	学校運営を円滑に遂行するため、組織を整備することは重要であると考えている。	中長期基本計画実現のために本部経営企画室メンバーで、経営戦略に関わる業務を行っている。		委員会等規程集（目次） 校務運営組織図

※点検進捗 4：優れている 3：適切である 2：やや不適切 1：改善が必要

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
中長期基本計画実現のために、校務運営組織内に本部経営企画室を設け、学校に対する指導・助言を適時に行っている。	全教職員が風通しのよい学校運営を目指し、学生ファーストの視点に立ったうえで、相互調整を行いながら業務を遂行している。

最終更新日付	2020年7月31日	記載責任者	本廣 淳範
--------	------------	-------	-------

## 2-5 人事・給与制度

小項目	※点検進捗	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
2-5-1 人事・給与に関する制度を整備しているか	2	人事・給与に関する諸規程を整備して運用することが重要であると考えている。	教職員の勤務評価を行い、人事・給与制度に連動させるべく、体制を整えている途上である。	中長期基本計画実現のため、勤務評価と人事・給与制度を連動させ、その評価が公平性を保ち、根拠に基づく教職員管理が可能となる就業規則を整備している途上である。	就業規則

※点検進捗 4：優れている 3：適切である 2：やや不適切 1：改善が必要

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
教育理念実現に向け、また学校が維持発展するためにも、明瞭な人事・給与制度を整備することが急務である。	今年度も未実施となった人事考課については、規程の整備・研修制度の導入など、体制を整えていく。

最終更新日付	2020年7月31日	記載責任者	本廣 淳範
--------	------------	-------	-------

## 2-6 意思決定システム

小項目	※点検 進捗	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
2-6-1 意思決定システムを整備しているか	3	意思決定システムを整備することは、ガバナンスを十分に機能させるために重要であると考えている。	学校運営の迅速な意思決定が出来る体制の確立を目指し、校内で学科・部署間の連携強化に努めた。	諸規程を整備し、権限を明文化することが必要と考えている。また、校務分掌を体系化し、迅速な課題解決のため、必要に応じプロジェクト型で対応していく。	校務運営組織図 委員会等規程集（目次）

※点検進捗 4：優れている 3：適切である 2：やや不適切 1：改善が必要

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
法人本部が経営状況分析を行い、経営改善の具体的指針として、中長期基本計画を策定した。第三者評価に耐える学校運営を進めていく。	校務分掌を体系化するため、業務の効率化と見直し、委員会の改編や会議のスリム化を目指していく。

最終更新日付	2020年7月31日	記載責任者	本廣 淳範
--------	------------	-------	-------

## 2-7 情報システム

小項目	※点検 進捗	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
2-7-1 情報システム化に取組み、業務の効率化を図っているか	3	業務の効率化を図るため、情報システム化は必要不可欠であると考えている。	2校の統合により、学生管理システムを導入した。業務効率化のために導入したシステムが円滑に稼働している。	メンテナンス及びセキュリティにおける体制の確立も必要である。	学校法人 IGL 学園情報公開規程

※点検進捗 4：優れている 3：適切である 2：やや不適切 1：改善が必要

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
旧健康福祉専門学校・旧医療専門学校の統合を機に、一元的なデータ管理を行うため、学生管理システムを導入した。	増加する留学生の学生管理システムについては、現状に見合ったシステムの導入を検討していく。 今後の ICT 環境整備・ICT を活用した授業の展開の整備に向け、教職員の ICT 教育研修が急務である。

最終更新日付	2020年7月31日	記載責任者	本廣 淳範
--------	------------	-------	-------

## 基準 3 教育活動

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>介護福祉学科、鍼灸学科、口腔保健学科は、それぞれ平成 24 年度（2012 年度）の活動実績を基盤として平成 25 年度（2013 年度）に、柔整学科はこれまでの活動実績を基にして平成 27 年度（2015 年度）に「職業実践専門課程」文部科学大臣認定を受けた。</p> <p>介護福祉学科、鍼灸学科、柔整学科、口腔保健学科はともに厚生労働省指定教育課程による国家資格取得を目指す学科である。国家資格試験合格 100%を実現する責任がある。</p> <p>さらに、国家資格を土台として利用者さん、患者さんから求められる介護・医療サービスを提供する専門職業人材養成施設である。</p> <p>卓越、熟達した実務経験・知識に基づく高度の専門的かつ実践的な能力を育てるため、「教育課程編成委員会」を設置した。有識者の意見を参考にして教育課程を編成し、シラバスを作成している。</p> <p>学生が修業年限に応じた学習成果を上げているか、教員は知識・技術の伝達に留まらず、学生の基本的な生活習慣が確立され、勉学の実の成長を確認するために授業アンケートを実施し、その結果を活用して指導力向上に努める。</p> <p>学生の学習成果向上のため、学校は組織的に動く。全教職員が機能し、自己点検・評価、学校関係者評価を行う。</p> <p>上記のことは概ね実行されており、第三者評価（私立専門学校等評価研究機構の様式使用）に耐えうる学校になることを目指す。</p> <p>教育計画の遂行、学習成果の充実・改善のために、教員研修と必要な人材の確保に努める。</p>	<p>「職業実践専門課程」文部科学大臣認定学科            介護福祉学科・鍼灸学科・口腔保健学科（平成 26 年 3 月 31 日認定）            柔整学科（平成 28 年 2 月 19 日認定）</p>

## 3-8 目標の設定

小項目	※点検 進捗	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
3-8-1 教育理念等に 沿った教育課程の 編成方針、実施方針 を定めているか	4	教育理念に沿った教育の実施 方針を定めることを方針とし ている。	<b>■介護福祉学科</b> 介護に必要な専門的知識や技術を 身につけ、豊かな心と相手の気持 ちに寄り添うことのできる介護福 祉士を目指し、職業人として専門 性、人間性、自己教育力を高めな がら主体的に働けるよう学生を育 成している。教育課程の編成は学 科会議、教務委員会で定め、学生 便覧に明記している。	文書化による外部公表を 行っていないため、HP 等での公表を検討してい く。	中長期基本計画
	4		<b>■鍼灸学科</b> 社会の変化やニーズに対応できる 「ハイレベルな鍼灸師」の養成を 目指すことを目標に挙げ、教育課 程の編成を行っている。		
	3		<b>■柔整学科</b> 地域住民の健康維持管理、介護現 場での機能訓練指導に加え、地域 包括ケアシステムの一員として認 知される人材の育成を目標として いる。		
	4		<b>■口腔保健学科</b> 時代のニーズに対応出来る知識や 技術、人間力を兼ね備えた優れた 歯科衛生士を養成することを目標 として教育課程を編成している。		

	4	教育理念に沿った教育の実施方針を定めることを方針としている。	<p>■日本語学科 「志望校に進学できるだけ日本語能力」、「日本の生活に適応できる社会的能力」、「犯罪や災害から自身を守るための知識」を大きな柱として、教育課程を編成している。</p>		
	4		<p>■国際教養コミュニケーション学科 外国人留学生が、国際社会に貢献するための教育課程を編成している。</p>		
3-8-2 学科毎に修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか	4	教育理念に沿った学科ごとの教育目標の達成に向けた教育課程を編成することは重要であると考えている。	<p>■介護福祉学科 介護福祉士の国家試験合格を教育到達レベルとしている。資格取得に向けて教育課程を編成し、指導・支援を行う体制を確立している。</p>	特になし。	資格取得状況一覧 教育課程表 シラバス 事業計画
	4		<p>■鍼灸学科 はり師・きゅう師の国家資格取得を教育到達レベルとしている。資格取得に向けて教育課程を編成し、指導・支援を実施する体制を確立している。国家試験合格率もはり師きゅう師とも100%であった。</p>		
	4		<p>■柔整学科 柔道整復師の国家資格取得を教育到達レベルとしている。資格取得に向けて教育課程を編成し、指導・支援を実施する体制を確立している。</p>		
	4		<p>■口腔保健学科 歯科衛生士の国家試験合格を教育到達レベルとしている。資格取得に向けて教育課程を編成し、指導・支援を実施する体制を確立している。</p>		

	4	教育理念に沿った学科ごとの教育目標の達成に向けた教育課程を編成することは重要であると考えている。	<b>■日本語学科</b> 学生の日本語能力別にクラス編成を行い、定期的にクラスの入替え試験を実施している。上位クラスは在学中に N2 合格、それ以外のクラスは N3 合格を目標に定めている。		
	2		<b>■国際教養コミュニケーション学科</b> クラスごとに日本語能力の目標を定め、学生が能力に応じたクラスで学習できる教育課程を編成している。N2 未満レベルで入った学生は確実に N2 合格、N2 レベルで入った学生は N1 合格を目標として明示している。	N2 合格者の N1 合格を目標にすることは、なかなか難しいと考えられるため、来年度は N2 の定着と N1 の基礎固めを目標に据えることとする。	

※点検進捗 4：優れている 3：適切である 2：やや不適切 1：改善が必要

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
理念・校訓に基づいた教育課程の編成・実施方針、学科ごとの修業年限に応じた教育到達レベルを明確に示している。	特になし。

最終更新日付	2020年7月31日	記載責任者	尾野 龍一
--------	------------	-------	-------

## 3-9 教育方法・評価等

小項目	※点検 進捗	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
3-9-1 教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか	4	厚生労働省指定基準等に基づいた教育課程編成を行っている。	<b>■介護福祉学科</b> 厚生労働省指定基準に基づいた教育課程を編成している。本校独自の教育内容を盛り込んでいる。本校独自の取り組みとして、DT(ダイバージョナルセラピー)プログラムを実施している。	本校独自の教育内容を盛り込み、教育成果を高めしていく。プログラム修了証の全員獲得を目指し、指導・助言を行う。	シラバス 教育課程表 DTプログラムに関する資料
	4		<b>■鍼灸学科</b> 厚生労働省指定基準に基づいた教育課程を編成している。本校独自の取り組みとして、スポーツトレーナー育成プログラムを開講している。	特になし。	シラバス 教育課程表 スポーツトレーナー育成プログラムに関する資料
	3		<b>■柔整学科</b> 厚生労働省指定基準に基づいた教育課程を編成している。本校独自の学外実習を明確に示している。スポーツトレーナーを目指す学生が多いため、トレーナー育成プログラムを実施すると同時に、学外活動の充実も図っている。国家試験出題科目以外の教科で、卒業後、社会で必要となる知識を教授するカリキュラムを組んでいる。	本校独自の教育内容を盛り込み、教育成果を高めるため、専門科目の基礎となる解剖学・生理学の復習授業を設け、学生の知識の向上を図っている。また、企業等の動向を伝えるべく、企業等の関係者の講演などを実施している。	

	4	厚生労働省指定基準等に基づいた教育課程編成を行っている。	<p>■口腔保健学科 厚生労働省指定基準に基づいた教育課程を編成している。また、本校独自の取り組みとして、コミュニケーション学やマナーの授業を通し、コミュニケーション能力の向上に向けた取り組みを実施している。</p>	本校独自の教育内容を盛り込み、教育効果・成果を高める。	シラバス 教育課程表
	4	日本語教育機関の告示基準・学事課の規程に基づいた教育課程編成を行っている。	<p>■日本語学科 能力別にクラス編成を行い、上位クラスは在学中に N2 合格、それ以外は N3 合格を目標に定めている。</p>	前年度の合格実績を踏まえ、効果的な授業や試験対策を盛り込む。	特になし
	3		<p>■国際教養コミュニケーション学科 日本語の能力のみならず、大学、社会生活で必要とされる知識、技術を身につけるための授業を展開している。</p>	本学科独自の教育内容を盛り込み、教育成果を高める。	シラバス
3-9-2 教育課程について、外部の意見を反映しているか	4	業界等関係者に参加をさせていただき教育課程編成委員会を開催して、外部意見を反映させることは重要であると考えている。	<p>■介護福祉学科 介護実習で現場の声を聴くとともに、教育課程編成委員会で企業等関係者の声を聴き、教育課程編成の参考にしてている。</p>	さらに多くの企業等関係者から意見を収集するために、実習先等を通じて現場の意見を聴く機会を増やす。	シラバス 教育課程編成委員会での提言に対する取り組み
	4		<p>■鍼灸学科 教育課程編成委員会で企業等関係者の声を聴き、教育課程編成の参考にしてている。特に卒業生との接点を積極的に増やしている。</p>		
	3		<p>■柔整学科 教育課程編成委員会で企業等関係者のご意見をいただき、教育課程を編成している。</p>		

	4	業界等関係者に参加をしていただく教育課程編成委員会を開催して、外部意見を反映させることは重要であると考えている。	<b>■口腔保健学科</b> 臨床実習先の意見を聴くとともに、教育課程編成委員会で企業等関係者の声を聴き、教育課程編成の参考にしている。		
	4		<b>■日本語学科</b> 外部から授業見学に来てくださった方の感想や非常勤講師の意見に謙虚に耳を傾けるようにしている。	特になし。	特になし
	3		<b>■国際教養コミュニケーション学科</b> 研修で学んだことや、非常勤講師からの意見を反映させている。	引き続き、大学教員や就職活動の面から考えた意見を採用し、学生のようなニーズに応えられるカリキュラムを作成する必要がある。	特になし
3-9-3 キャリア教育を実施しているか	3	専門知識・技術・技能に加えて、社会人に必要な基礎力を習得するため、キャリア教育が重要であると考えている。	<b>■介護福祉学科</b> 通常のカリキュラムに加え、コミュニケーションに特化した特別講義を実施している。また、関係施設に出向き、直接コミュニケーションを図ることにより、さらなる能力の向上に努めている。	現在の授業のみでは不十分であり、一人ひとりの能力やレベルに応じたキャリア教育の体系化を図ることを検討する。	シラバス 教育課程編成委員会での提言に対する取り組み
	4		<b>■鍼灸学科</b> 医療面接の科目でコミュニケーションについての授業やコミュニケーションに特化した特別講義を実施している。また、学生に社会人が多く、ある程度のキャリア教育を受けている。	特になし。	

	3	専門知識・技術・技能に加えて、社会人に必要な基礎力を習得するため、キャリア教育が重要であると考えている。	<b>■柔整学科</b> カリキュラムの中に国語を取り入れ、文章検定を受験させ、文章能力を養成する。また、コミュニケーションをカリキュラムに入れ、患者やスタッフとのコミュニケーション能力向上を図る。	国語（文章検定）やコミュニケーションをカリキュラムに導入後、授業アンケートなどで検証する必要がある。	
	3		<b>■口腔保健学科</b> カリキュラムの中にコミュニケーション学やマナーを取り入れ、コミュニケーション能力の向上に取り組んでいる。	現在の授業のみでは不十分であり、キャリア教育の体系化を図ることを検討する。	
	3		<b>■日本語学科</b> 入学から卒業までのキャリア教育カリキュラムを作成し、それに基づいて実施している。また、日本で活動している卒業生や外国人をゲストとして招き、在校生に話をしてもらっている。	より具体的なイメージをしてもらうための卒業生等の外部ゲストの招聘の複数回実施や、新規在留資格「特定技能」に対応したキャリア教育を検討していく。	
	3		<b>■国際教養コミュニケーション学科</b> キャリア教育の授業では、入学時から進学、就職までのイメージを描かせることで学習に対する動機づけを行うとともに、計画性をもって物事に当たることができる能力を育成している。	進学先選択の幅を広げるために、提供する情報量を増やしたい。また、就職活動に関する情報収集の必要性が高まっているため、関係各所と連携を取りながら、進めたい。	
3-9-4 授業評価を実施しているか	3	授業改善のためには、教える立場の視点のみでは十分ではなく、学習者の視点での評価も必要であると考えている。	<b>■介護福祉学科</b> 授業アンケートを実施し、学生からの意見や情報を学科長から各教員にフィードバックし、助言・指導を行う。集計結果の活用は教員個々に委ねている。	授業アンケートの結果をもとに授業内容を把握し、改善策を検討する。	授業評価アンケート 授業アンケート集計

	4	授業改善のためには、教える立場の視点のみでは十分ではなく、学習者の視点での評価も必要であると考えている。	■鍼灸学科 授業アンケートを実施し、集計結果を学科長から各教員にフィードバックしている。問題がある教員には学科長が指導・助言をしている。		
	3		■柔整学科 授業アンケートを実施し、学生からの意見を教員間で共有し、指導内容の改善及び向上を図っている。		
	4		■口腔保健学科 授業アンケートを実施し、集計結果を学科長から各教員にフィードバックしている。問題がある教員には学科長が指導・助言をしている。		
	3		■日本語学科 半年ごとに行う授業アンケートの集計結果を各教員に返却する際、学科長による面談を行っている。	授業見学の定期的な実施や、授業アンケートの項目追加などより具体的な改善ができるようにしていく。	
	4		■国際教養コミュニケーション学科 半期ごとに授業アンケートを行い、各教員に結果を渡す際に学科長面談を行い、教員の相談に乗りつつ、改善を促している。	面談前に授業見学を行うなど、アンケート結果だけに頼らないよう、実践的な話し合いになるよう努める。	

※点検進捗 4：優れている 3：適切である 2：やや不適切 1：改善が必要

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
厚生労働省指定基準ならびに日本語教育振興協会等の教育課程に準じた授業運営を行っている。教育効果を高めるため、創意工夫を重ねていく。	医療・福祉系4学科は、厚生労働省指定基準があるため、独自の教育内容を盛り込む余地が少ないが、企業等外部の意見等に対し、柔軟な対応で企業等との風通しの良い関係性を構築し、教育効果が高い取り組みを検討したい。

最終更新日付	2020年7月31日	記載責任者	尾野 龍一
--------	------------	-------	-------

## 3-10 成績評価・単位認定等

小項目	※点検 進捗	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
3-10-1 成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか	4	成績評価等の基準を明確化し、適切に運用することは重要であると考えている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>■介護福祉学科</li> <li>■鍼灸学科</li> <li>■柔整学科</li> <li>■口腔保健学科</li> </ul> 成績評価・単位認定基準は学生便覧に明示し、教員は基準に従って成績評価を行っている。また、入学前に修得した単位の認定基準も学生便覧に明示している。	成績不振の学生に対して、個別面談及び指導・補講を実施し、成績の改善に努めている。	学生便覧
	4		<ul style="list-style-type: none"> <li>■日本語学科</li> <li>■国際教養コミュニケーション学科</li> </ul> 成績評価・単位認定基準は学生便覧に明示し、教員は基準に従って成績評価を行っている。	成績会議を開き、成績を点検をするためのチェック体制を整えている。	
3-10-2 作品及び技術等の発表における成果を把握しているか	3	学会等の研究発表会は学生の学びの集大成と考えており、積極的に外部の学会や研究発表会に参加する方針である。	<ul style="list-style-type: none"> <li>■介護福祉学科</li> </ul> 広い視野を持つ機会を得るために、介護に関わる研修会・発表会(介護実習報告会・介護の日フェスタ・ケアコンテストなど)へ参加を促している。	学生に対し、実習終了後にアンケートを実施し、フィードバックをして今後に生かせるようにする。施設側にもフィードバックを行い、教育(指導)体制の向上を図る。	研修会・発表会等のパンフレット
	2		<ul style="list-style-type: none"> <li>■鍼灸学科</li> </ul> 以前は東洋療法学校協会主催の学術大会で研究発表を行っていたが、ここ数年は発表を希望する学生がおらず、参加していない。	学生に積極的に勧めていく。	

	4	学会等の研究発表会は学生の学びの集大成と考えており、積極的に外部の学会や研究発表会に参加する方針である。	<b>■柔整学科</b> 教員が学会発表・講習会等を行うと同時に、学生も学外における研修会等に積極的に参加するように働きかけている。	学生に学外における研究発表の意義を説明し、継続的に参加を促していく。
	3		<b>■口腔保健学科</b> 学会や講習会への参加を促している。	特になし。
	4		<b>■日本語学科</b> 授業で作成した掲示物や発表は教室や廊下に積極的に掲示している。また成果物だけでなく、その作成に対する取り組み方も評価の対象としている。	
	4		<b>■国際教養コミュニケーション学科</b> 作文、スピーチコンテストなどがあれば告知を行い、参加を呼び掛けている。参加があった場合には、学内で指導、報告等を行っている。	校内での発表の機会を設け、その意義を実感させる。そのうえで外部のイベントの告知を行い、参加を促したい。

※点検進捗 4：優れている 3：適切である 2：やや不適切 1：改善が必要

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
成績評価ならびに単位認定は学校教育の総決算であり、教育指導力の結果である。修業年限に応じた学習課題、最終学習到達目標として把握されるものであるため、透明性を高めると同時にその基準は公開されなければならない。	特になし。

最終更新日付	2020年7月31日	記載責任者	尾野 龍一
--------	------------	-------	-------

## 3-11 資格・免許の取得の指導体制

小項目	※点検 進捗	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
3-11-1 目標とする資格・免許は、教育課程上で、明確に位置づけているか	4	取得目標とする資格等を明確に位置づけることは重要であると考えている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>■介護福祉学科</li> <li>■鍼灸学科</li> <li>■柔整学科</li> <li>■口腔保健学科</li> </ul> 介護福祉士、はり師・きゅう師、柔道整復師、歯科衛生士を養成する学校であるため、明確に位置づけられている。学生全員の国家試験合格を目指し、通常の授業に加え、国家試験対策授業や補習、特別講義なども手厚く行っている。	特になし。	学校パンフレット 学生便覧 シラバス 事業計画
	4		<ul style="list-style-type: none"> <li>■日本語学科</li> </ul> レベルの高い学生はN2合格、それ以外はN3合格を目標とし、日本留学試験でも170点～200点を受験希望者が取得できるよう教育課程編成を行っている。		
	4		<ul style="list-style-type: none"> <li>■国際教養コミュニケーション学科</li> </ul> N2レベル未満の入学生には、N2合格、N1受験予定の学生にはN1合格を目指した教育課程を編成している。また、日本留学試験の対策授業も行っており、受験者全員の高得点を目指している。		

3-11-2 資格・免許取得の指導体制はあるか	4	全国水準を上回る高い国家試験合格率を保つための指導体制を構築することは重要であると考えている。	<b>■介護福祉学科</b> 各教科に特講の授業を設け、国家試験対策授業を行っている。外部模擬試験 2 回、内部模擬試験 1 回を実施、学力評価試験を実施している。	4 月から取り組みをはじめ、個人のレベルに合わせた内容の課題を与え、全体のレベル向上を目指した。学力評価試験において、全国平均を上回る正答率となった。今後も、個々のレベルに合わせた指導が必要である。	教育課程表 シラバス 行事予定
	4		<b>■鍼灸学科</b> カリキュラムに国家試験対策授業を組んでおり、模擬試験も年 5 回実施している。成績不良者には勉強会や特訓を実施している。また、不合格者に対して 1 年間無料で授業が受けられる聴講制度を設けている。	特になし。	
	3		<b>■柔整学科</b> 1 年次から解剖学や生理学、柔整理論について反復学習を展開し、段階的に知識を身につける方法を取っている。また、国家試験対策授業を組み、国家試験形式のテストを年 7 回実施し、問題の解説を作成させ、知識定着を図っている。成績不良者には勉強会や補講を実施している。国家試験不合格者に対する国家試験対策講座を平成 30 年 8 月から平成 31 年 2 月にかけて、週 2 回開催した。	合格率は全国平均を下回っている。個々の知識レベルを把握する問題などを作成し、個人の状況に応じた対策を取る必要がある。	教育課程表 シラバス 行事予定 柔道整復師国家試験対策講座資料

	4	全国水準を上回る高い国家試験合格率を保つための指導体制を構築することは重要であると考えている。	<b>■口腔保健学科</b> 2年次より「総合演習」の科目で国家試験対策を行っている。また、3年次には模擬試験を7回行い成績に応じて補講や指導を行っている。	特になし。	特になし
	4		<b>■日本語学科</b> レベルの高い学生には1年生の時点でN3に合格できるようなカリキュラムを編成し、N2合格者を増やす取り組みを行っている。	教員は学生のN2合格に向けた授業を模索し、年度ごとの試験の合格率等が遞減しないように努めていく。	
	3		<b>■国際教養コミュニケーション学科</b> 能力試験と留学試験に特化した授業をそれぞれ行い、目標達成を目指している。授業の質を向上させるために、教員間で連携を取り、情報収集、指導法の改善に努めている。	2019年度は留学試験において、得点が思うように伸びなかった。これは留学試験の形式、難易度などが多少変更されたためと推察できる。過去問での分析などを通して、よりよい授業を模索したい。	

※点検進捗 4：優れている 3：適切である 2：やや不適切 1：改善が必要

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
厚生労働省の国家資格取得を目指す学科と日本語能力検定合格を目指す学科がある。教育課程上における位置づけは明確であるが、教育指導の質にバラツキがみられるため、教務部が組織的に指導力の向上を図る体制を整えつつある。	学科内だけでなく学科間においても連携を取り、また、教員対象の研修会・勉強会等に積極的に参加し、指導力の向上を図る。

最終更新日付	2020年7月31日	記載責任者	尾野 龍一
--------	------------	-------	-------

## 3-12 教員・教員組織

小項目	※点検 進捗	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
3-12-1 資格・要件を備えた教員を確保しているか	4	厚生労働省指定教育課程等に対応した資格・要件を備える教員を確保することは重要であると考えている。	■介護福祉学科 厚生労働省指定教育課程に対応した資格・要件を備える教員を確保している。	特になし	特になし
	4		■鍼灸学科 あん摩マッサージ指圧師、はり師及びきゅう師に係る学校養成施設認定規則で定められた資格・要件を備えた教員を確保している。	特になし。	
	3		■柔整学科 柔道整復師に係る学校養成施設認定規則で定められた資格・要件を備えた教員を確保している。	高い指導力を持った教員の採用と、内部研修を進めていく。さらに、様々な科目の国家試験対策授業を担当できるよう、他教科授業聴講等により各教員がスキルを上げていく。	
	3		■口腔保健学科 厚生労働省指定教育課程に対応した資格・要件を備える教員を確保している。	高い指導力を持った教員の採用を進めていく。	
	3		■日本語学科 法務省の定める基準を満たした教員を確保している。	特になし。	
	4		■国際教養コミュニケーション学科 専修学校の設置基準を満たす教員を確保している。	特になし。	

3-12-2 教員の資質向上への取組みを行っているか	3	専門性の資質向上への取組みは重要であると考えている。	<b>■介護福祉学科</b> 介護福祉士養成施設協会や介護福祉士会主催の教職員研修会や教育学会、介護福祉士国家試験対策セミナー等に積極的に参加している。	研修の学びを情報共有し、資質向上につなげていく	研修等の実績 研修会の報告書
	4		<b>■鍼灸学科</b> 東洋療法学校協会主催の教員研修会等に参加している。また、関連業界団体が主催する様々な研修に参加している。	特になし。	
	3		<b>■柔整学科</b> 柔道整復師学校協会や接骨医学会主催の教員研修等に参加している。その他、各種関連団体が主催する様々な研修に参加や発表を行っている。	研修後のフィードバックを確実に行う。	研修等の実績 研修会の報告書 学術大会のパンフレット
	4		<b>■口腔保健学科</b> 日本歯科衛生教育学会・学術大会や関連団体の研修会等に参加し、情報を共有している。	特になし。	
	4		<b>■日本語学科</b> 各教員が外部研修に参加し、学んできた内容を会議などで共有している。また校内で定期的に研修会を実施している。	特になし。	研修等の実績 研修会の報告書
	4		<b>■国際教養コミュニケーション学科</b> 各教員が外部研修に参加し、学んできた内容を会議などの際に共有している。また校内でも専任、非常勤講師が参加する日本語能力指導に関する研修を行い、指導力の向上に努めている。	今年度は新任教員の研修の充実を図った。次年度以降、新任教員の研修をマニュアル化し、他の教員でも行えるようにしたい。	

3-12-3 教員の組織体制を整備しているか	3	教員の組織体制を整備し、業務分担を明確にすることは重要であると考えている。	<b>■介護福祉学科</b> 毎月学科会議を行い、学科内の連携・協力体制を取っている。関連する科目に関しては、教員間（非常勤教員含む）でコミュニケーションを図り、つながりのある授業を展開している。	特になし。	校務運営組織図
	4		<b>■鍼灸学科</b> 毎月学科会を行うことで学科内の連携・協力体制がとれている。非常勤講師との連携は担任を中心に行っている。	特になし。	
	3		<b>■柔整学科</b> 毎月学科会を開催し、学科内の連携・協力体制を取っている。指導の強化に関しては、教員間でコミュニケーションを密に取り、学科内で連携して授業を展開している。	特になし。	
	3		<b>■口腔保健学科</b> 学科会議を開催し、情報共有を行っている。	特になし。	
	4		<b>■日本語学科</b> 学科内での業務分担を行い、学科長の指揮のもと、逐次報告しながら業務を進めている。	特になし。	
	4		<b>■国際教養コミュニケーション学科</b> 学生の学力向上のための情報交換を密に行っている。専任教員の負担が大きくなり過ぎないように、授業担当者の選別を行う。学内全体の協力体制を強化するために、組織に必要とされる人材になることを目指す。	特になし。	

※点検進捗 4：優れている 3：適切である 2：やや不適切 1：改善が必要

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>厚生労働省指定国家資格取得者養成施設、日本語教育振興協会指定校であり、資格・要件を満たしている。 教員の指導力を向上させ、国家試験・日本語能力試験の合格率アップにつなげていく。</p>	<p>特になし。</p>

最終更新日付	2020年7月31日	記載責任者	尾野 龍一
--------	------------	-------	-------

## 基準 4 学修成果

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>本校は、福祉と医療に関する専門知識と技術を習得し、健康で明るい社会を創造する人材の育成と、日本の大学等に進学を希望する外国人留学生に対し、日本語教育及び日本文化等の教育を行い、高等教育を受けるために必要な日本語能力を養う教育機関である。</p> <p>学生の希望の進路 100%実現を目指し、全教職員が日々協働している。</p> <p>同窓会については、2 校統合後は I G L 医療福祉専門学校同窓会として、卒業生の支援をしていただいている。同業者としての情報交換・研修を通じて資質向上に努めようと尽力されている。</p> <p>学生支援システムによって、入学前情報・学習成績情報・卒業後の進路情報管理の一元化を図り、在学中だけでなく卒業後のフォローも行っている。</p>	<p>企業主催の鍼灸院・接骨院・医療福祉機関等の求人希望者との「就職説明会」が初めて開催され、鍼灸学科及び柔整学科 3 年生全員・2 年生の希望者が参加した。</p> <p>上記以外の学科においても、校内外における就職ガイダンスに積極的に参加している。</p>

最終更新日付	2020 年 7 月 31 日	記載責任者	尾野 龍一
--------	-----------------	-------	-------

## 4-13 就職率

小項目	※点検 進捗	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
4-13-1 就職率の向上が図られているか	3	希望者全員の就職を目指している。就職委員会を中心に、各学科の就職担当者が積極的に取り組むことが重要であると考えている。	<b>■介護福祉学科</b> 就職担当者が全学生を対象に定期的に就職ガイダンスを実施。就職に向け、段階的に指導しつつ、個人別に状況を把握し、適切な支援を行う。また、求人施設等との情報交換を行い、就職のマッチングに生かす。校外での就職ガイダンス等の情報提供を行い、参加を促している。	キャリア教育導入により、学校全体の職業意識向上を図る。進路アンケートで学生の就職希望などを把握する。求人票を学生が閲覧しやすい場所に設置し、早期内定に結びつける。	就職支援業務予定表 就職状況一覧
	3		<b>■鍼灸学科</b> 3年生担任が学生の就職活動を個人別に把握し、適切な就職支援・指導を行っている。また、学校独自の就職説明会を実施している。しかし今年度はコロナ禍の影響で学生の就職状況は厳しいものとなっている。	面談回数を増やし、積極的に学生の希望を聞き、希望に沿った就職先を斡旋する。	
	3		<b>■柔整学科</b> 就職担当者が学生の就職活動を個人別に把握し適切な就職支援・指導を行うとともに外部企業を招き、学校独自の就職説明会を実施している。	履歴書の書き方指導、マナー講座を実施していく。各学生の就職活動状況の把握を担当だけではなく、学科ならびに就職委員会でも把握するシステムを整える。また、求人票を学生が閲覧しやすい場所に設置し、就職を早期に意識させ、学業に対するモチベーションアップを図る。	

	3	希望者全員の就職を目指している。就職委員会を中心に、各学科の就職担当者が積極的に取り組むことが重要であると考えている。	<b>■口腔保健学科</b> 7月に就職説明会を行った後、就職活動を行い、12月頃には希望者全員が内定を得るよう指導を行っている。	面談で学生の就職希望等を把握し、教員間で情報共有を図り、就職に関する相談体制を充実させる。	
	2		<b>■日本語学科</b> 日本語学科は就職を目標とする学科ではないため、就職指導は希望者に個別に実施している。	就職希望者が徐々に増えてきており、「特定技能」も新設されたので、今後は新設した留学支援室が中心となり、体系的に就職に向けた学生指導を行っていく必要がある。	特になし
	2		<b>■国際教養コミュニケーション学科</b> 近年は就職希望者も増加傾向にあるため、希望者に対し、個別に指導を行っている。進学に関しては、授業時間外に個人面談や面接練習を行うことで、全学生が自信を持って入試に臨める状態になるよう、指導をしている。	就職指導は、近年始まったものであるため、担当者を早急に決め、今後の流れも考えていきたい。	

※点検進捗 4：優れている 3：適切である 2：やや不適切 1：改善が必要

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
求人数が求職者数を大きく上回る状況が近年続いており、就職環境は極めて良好であるが、新型コロナウイルス感染症の影響がみられる学科があった。揺るぎのない社会人基礎力養成、職業意識醸成に向け、早期教育を行う必要がある。キャリア教育を理論的に把握して教材作成を行うとともに、カウンセリング機能を果たすべく、キャリアカウンセラーの養成を目指す。	特になし。

最終更新日付	2020年7月31日	記載責任者	尾野 龍一
--------	------------	-------	-------

## 4-14 資格・免許の取得率

小項目	※点検 進捗	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
4-14-1 資格・免許取得率の向上が図られているか	4	資格・検定取得について、学生全員が合格するようにサポートすることが重要であると考えている。	<p>■介護福祉学科 国家試験全員合格を目指し、授業以外でも放課後に個別指導を実施している。各教科に特講を設け、国家試験問題や模擬問題に繰り返しチャレンジし、根拠に基づいた解説を行い、理解度向上を図っている。 ※2019年度合格率 94.1% (全国 69.9%)</p>	介護福祉士国家試験合格に向け、学生全体の能力向上、及び合格率アップのための対策授業を行う。学生一人ひとりのレベルに応じた授業展開の工夫をする(模擬試験を実施し能力別に 2 つのクラスに分ける)。	資格取得状況一覧 シラバス 入学前サポート資料
	3		<p>■鍼灸学科 合格率 100%を目指して指導を行っている。国家試験対策授業を設けている他、成績不良者には勉強会や特訓を実施している。2019年度の合格率は、はり師 100%、きゅう師 100%であった。 ※全国平均—はり師 89.3%、きゅう師 88.9%</p>	国家試験の難易度が急に下がったが、油断はできない。今後も国家試験に対する高い意識を持って学生を指導していく。	

	3	資格・検定取得について、学生全員が合格するようにサポートすることが重要であると考えている。	<b>■柔整学科</b> 3年生に対し個別指導を放課後に実施し、受験者が全員合格する事を目標とした。さらに、必修対策講義を行い、理解度向上を図った。2019年度新卒合格率が76.2%であった（全国新卒合格率：84.8%）。新入生に対し、入学前サポートプログラムの導入を行い、入学前の学力等の把握を図り、入学後の指導の参考とした。	1年次より、国家試験重点科目では復習となりうる授業を設置することで、専門科目に繋がる専門基礎科目の知識向上に努める。2年次にも、重要科目の復習授業を設置し、国家試験に向けた知識の定着を図る。さらに、3年次には主要科目の項目進行をリンクさせる内容に変更する。入学する学生の状況も年々変化しており、学生個々の状況を考慮し、入学前サポートプログラムを活用した指導法を模索していく。	
	4		<b>■口腔保健学科</b> 合格率100%を目指し、1年次より指導を行っている。また、個別指導を行い、学力の向上を図っている。2019年度の国家試験合格率は90.3%であった（全国平均94.3%）。	成績不良者に対して個別指導を行い、今後も合格率100%を維持していく。	
	3		<b>■日本語学科</b> 進学必要要件の日本語能力を取得するために複数の試験を受けさせ、全員がその基準以上の取得ができるように目指している。	基準点以上が取得できるように、カリキュラムの編成や、指導力向上のために教員間での情報交換度を行っている。	

	3	資格・検定取得について、学生全員が合格するようにサポートすることが重要であると考えている。	<p>■国際教養コミュニケーション学科</p> <p>学生の気づきによって学ぶことを重視する授業を行うことで、「自ら考える学生」を育成する。試験結果は教員間で共有し、次年度の指導に生かすべく、授業の改善に取り組んでいる。また、試験合格者に対して特別奨学金を授与することで、モチベーションの向上を図っている。</p>	今年度は希望者に向けて、長期休暇中に強化補講も行った。概ね評判もよかったので、更に改善していきたい。	
--	---	---	---	--	--

※点検進捗 4：優れている 3：適切である 2：やや不適切 1：改善が必要

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
職業教育学校として、学生全員の国家試験合格が目標となる。日本語能力試験(JLPT)は中国人留学生 N2、ベトナム人留学生 N3 以上の合格が目標。目標達成に向け、入学時から個々の状況に応じた適切な指導を行っていく。	特になし。

最終更新日付	2020年7月31日	記載責任者	尾野 龍一
--------	------------	-------	-------

## 4-15 卒業生の社会的評価

小項目	※点検 進捗	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
4-15-1 卒業生の社会的評価を把握しているか	2	卒業生の活躍により業界等から学校に対する評価が上がり、在校生の就職につながっていくことが一番の社会的評価であると考えている。	■介護福祉学科 実習担当者が実習巡回先で卒業生の状況の把握に努めている。	卒業生の動向を十分に把握できているとは言えない。同窓会と連携し情報を把握することを検討している。	同窓会 HP
	4		■鍼灸学科 ■柔整学科 同窓会と連携し、卒業生の動向の把握に努めている。卒業生の開業先をファイルにして保管している。	長期休暇を利用し、教員自身が卒業生の治療所を訪問して近況を確認した。また、特別講師として卒業生を招聘した。	特になし
	3			卒業生の動向を十分に把握できていない為、同窓会との連携を強化し、情報把握に努める。さらに、「良い学生は良い職場に」をテーマに企業情報も把握し、企業にマッチングした人材を送ることで、卒業生の評価も上げていく。定期的に就職先を訪問し、学生の状況把握をしていく。通信媒体での学生からの報告も記録していく。	
	3		■口腔保健学科 実習巡回の際に卒業生の動向把握に努めている。また、同窓会を通じて卒業生の現状把握に努めている。	同窓会との連携を強化し卒業生の状況把握に努める。	

	3	卒業生の活躍により業界等から学校に対する評価が上がり、在校生の就職につながっていくことが一番の社会的評価であると考えている。	<b>■日本語学科</b> 元担任から卒業生の状況を把握し、活躍している卒業生にゲストとして講和してもらったり、近況などを学生に周知できるようにしている。	実態を把握できている卒業生の人数は少ない。卒業生が在籍する学校の担当者と話す機会が得られたときに、近況をヒアリングする。	
	3		<b>■国際教養コミュニケーション学科</b> 卒業生が進学した大学、専門学校との連携を深め、良好な関係を築いている。また、大学進学後に模範となる学生になることを目指し、生活指導、マナー指導を行っている。	今後も積極的に卒業生やその進学先との連携を図る。今年度は特に新規の進学先が増えたので、学生の動向や学校の評判など、情報収集を行いたい。	

※点検進捗 4：優れている 3：適切である 2：やや不適切 1：改善が必要

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
国家資格取得者が高く評価されるよう、業界事情の把握に努めるとともに、厚生労働省、日本語教育振興協会等と連携を取り、社会的地位の向上に寄与する活動を展開していく。 同窓会との連携により、卒業生の活躍を把握し、在校生や世間に広く周知することで、職業に対する誇りを高め、学生の学習意欲の向上を図る。	卒業後の進路については、企業・施設等に対する定期的な在籍確認を行うことを検討している。

最終更新日付	2020年7月31日	記載責任者	尾野 龍一
--------	------------	-------	-------

## 基準5 学生支援

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>学生全員が卒業できるように、授業の出欠状況・態度及び生活状況等を定期的に確認することで、学生個々の問題を早期把握し、必要に応じて保護者と連携して対応にあたっている。</p> <p>経済的困難を抱える学生に対しては、公的奨学金・修学資金等の紹介、適切な学費の延納・分納手続きを行っている。</p> <p>学生の健康管理は、学校保健安全法に基づいた健康診断を行い、留学生については、学生寮を準備して生活環境を整えている。</p> <p>就職については、クラス担任と就職担当教員が連携を取りながら学生を支援する体制になっている。</p>	特になし。

最終更新日付	2020年7月31日	記載責任者	尾野 龍一
--------	------------	-------	-------

## 5-16 就職等進路

小項目	※点検 進捗	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
5-16-1 就職等進路 に関する支援組織 体制を整備してい るか	3	支援組織体制は、就職活動にきめ細かく対応するために重要であると考えている。	<p>■介護福祉学科 就職委員会と担任が連携して対応している。学生の就職活動状況(見学会や説明会参加など)を報告書にて管理し、教員間で共有している。履歴書の書き方(封書の宛名書きも含む)、面接の仕方、マナー(電話対応、身だしなみなど)について指導を行っている。就職担当教員や担任が学生からの進路に関する相談や質問に対し、面談などで適時対応している。</p>	<p>積極性に欠ける学生の増加に対応すべく、個別就職相談の充実が必要である。 (個人面談の実施)学生の就職に対する意識づけが必要となる。履歴書の書き方や送付時の封書の宛名の書き方、面接におけるマナーなどのさらなる指導が必要である。求人票を学生が閲覧しやすい場所に設置し、早期内定に結びつける。</p>	就職状況一覧 就職説明会実施要項 マナー講座実施要項 委員会名簿
	3		<p>■鍼灸学科 担任・学科長を中心に対応している。学生の就職活動状況を管理、共有している。企業(スリーサイズ)が実施する合同就職説明会に参加させている。マナー講座を開催し、面接時のマナーや服装、髪型など指導している。担任は就職に関わる悩みや質問に対し、随時面談を行う体制を整えている。</p>	<p>就職担当者以外の教員が情報を共有するため、学生管理システムを有効に活用していく。マナー講座に加え、履歴書の書き方指導をする。</p>	

	3	支援組織体制は、就職活動にきめ細かく対応するために重要であると考えている。	<p>■柔整学科 就職担当者が学生の就職活動を個別に把握し、適切な就職支援・指導を行っている。企業（スリーサイズ）が実施する合同就職説明会に参加させている。</p>	<p>履歴書作成のレクチャーなどの強化を行っていく。各学生の就職活動状況の把握を担当だけでなく、学科ならびに就職委員会でも把握するシステムを構築する。また、求人票を学生が閲覧しやすい場所に設置し、就職を早期に意識させ、学業へのモチベーションアップを図る。就職の満足度を図るため、離職率についてもアンケート調査など行う。</p>	
	4		<p>■口腔保健学科 就職活動を行った際に就職活動報告書を提出させ、活動状況を把握するとともに、教員間で情報共有を行い、個別に助言や指導を行っている。</p>	<p>積極的な就職活動を展開できない学生に対し、面談を実施する。</p>	
	3		<p>■日本語学科 教員と学生が個別に就職についての指導はしている。その情報を教員間で共有している。</p>	<p>学科としての指導体制ができていたとは言えず、就職希望の学生や特定技能での就職希望の学生も増加している。今後は新設した留学生支援室が中心となり、体系化していく必要がある。</p>	

	2	支援組織体制は、就職活動にきめ細かく対応するために重要であると考えている。	■国際教養コミュニケーション学科 就職活動を行う留学生が増加しているため、就職指導をシステム化する必要がある。まずはそのための情報収集に努める。	進学指導や試験対策の授業に追われ、なかなかシステムを確立する時間を取ることができていない。就職活動のシステム化を図るために、日本語学科も含め業務分担を見直す必要がある。	
--	---	---------------------------------------	---	--	--

※点検進捗 4：優れている 3：適切である 2：やや不適切 1：改善が必要

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>出口戦略として、就職・進学にも重きを置き、就職活動・進学受験対策への適切なフォローアップを欠かさず、日常的に行う。</p> <p>在学期間中のキャリア教育の構築ならびに理論的整理のため、キャリアカウンセラーの養成を目指す。</p>	特になし。

最終更新日付	2020年7月31日	記載責任者	尾野 龍一
--------	------------	-------	-------

## 5-17 中途退学への対応

小項目	※点検 進捗	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
5-17-1 退学率の 低減が図られて いるか	3	相談体制を整備し、問題解決に適切 に対応することが重要であると考 えている。	<p>■介護福祉学科 漠然と資格取得を目指して 入学した学生が、想像以上 の授業の難易度や課題につ いていけなくなっている。 また、身体面、精神面に不 安を持っている学生が、入 学後に症状が悪化して学業 を継続することが難しくな っている。担任を中心に個 人面談を行い、教員一丸と なってサポートをしていっ た。</p>	個人面談を通して、学生の 学習意欲、身体面、精神面 などの状況を早期に把握 する。学生の問題を一緒に 解決していこうと姿勢で学 生をサポートしていく。(孤 立させない) カウンセラー など専門職の検討が必要で ある。	退学状況一覧 入学前サポートプログラム 資料
	4		<p>■鍼灸学科 令和元年度は2名が退学し た。理由は成績不良、親の 介護である。成績不良者 には早期面談を行い、勉強 会等の指導を行った。ま た、新規入学者を対象に 入学前サポートプログラム を実施している。スクー リングで予習をさせること により、入学後スムーズ に勉強に取り組めるよう にしていく。</p>		

	3	相談体制を整備し、問題解決に適切に対応することが重要であると考えている。	<p>■柔整学科 近年、学習面に課題のある入学生が増加傾向にあるが、中途退学率は0%に抑える事ができた。引き続き学生生活のサポートを手厚く行い、退学率0%を維持していきたい。</p>	学習面に課題のある学生には入学前サポートプログラムの受講を促す。また、早期にスクリーニングテストを実施し、勉強面や心理面での不安を発見し、個別に面談を行っていく。	
	4		<p>■口腔保健学科 基礎学力、学習習慣が身についていない学生も多いが、周囲に勧められるまま入学した学生が、何らかのきっかけで突然学習意欲を失ったり、退学して他の分野へ進路変更するケースが増えている。</p>	面談回数を増やしたり現役の歯科衛生士を招いた授業で資格の重要性を再認識させている。学力に問題がある学生には可能な限り補習などの個別指導を行っているが放課後に残れない学生も多く、十分に対応しきれしていない。	
	3		<p>■日本語学科 出席状況が悪い学生には、退学処分が下らないように段階的に指導を行っている。また、生活や心理面に問題を抱えた学生には、ネイティブスタッフを交えた面談で問題解決を図っている。</p>	出席不良による退学処分は、学生の変化を観察することで予兆を知ることができる可能性がある。記録を蓄積して指導に活用する。	

退学状況一覧

	2	相談体制を整備し、問題解決に適切に対応することが重要であると考えている。	<p>■国際教養コミュニケーション学科</p> <p>出席率低下による退学者を出さないために、学生の様子に気を配っている。生活の自己管理が難しい学生に関しては、早い段階で面談等を行い、改善を促している。面談の際には、生活指導記録をつけ、教員間での情報共有を図っている。</p>	<p>今年度は6名の退学者を出した。特に前期中に親の勧めで帰国する学生が相次ぎ、難しさを感じた。また、学費の未払いが続く学生が期の最後になくなるという事例も発生したため、学費の支払いと普段の態度に気を配る必要性を強く感じた。</p>	
--	---	--------------------------------------	--	--	--

※点検進捗 4：優れている 3：適切である 2：やや不適切 1：改善が必要

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>クラス担任は出席簿の確認及び授業科目担当教員、クラスメイト等からの情報を収集し、授業の出欠席・遅刻と学校生活状況、授業態度等の確認を定期的に行い、学生個々の状況を的確に把握し、退学の兆候を見逃さないようにする。</p> <p>経済的理由による退学に関しては、公的奨学金・修学資金等の紹介、適切な学費の延納・分納手続きで対応を行っている。</p>	<p>医療・福祉系4学科は入学前サポートプログラムを導入し、学習面に不安を抱える新規入学者に対し、積極的な受講を呼び掛けている。</p>

最終更新日付	2020年7月31日	記載責任者	尾野 龍一
--------	------------	-------	-------

## 5-18 学生相談

小項目	※点検 進捗	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
5-18-1 学生相談 に関する体制を 整備しているか	4	相談体制を整備し、修学支援等を行 うことは重要であると考えている。	■介護福祉学科 担任・副担任が中心となり相談対 応を行っている。場合によっては、 学科長、学科会議を持って対応方 法を協議している	特になし。	面談記録
	3		■鍼灸学科 情報共有を密に行い、担任及び学 科内で十分に対応できている。	特になし。	
	3		■柔整学科 担任を中心に相談対応を行って いる。面談記録を残し、担任だけ でなく、学科内での情報共有に努 めており、様々な視点から学生をサ ポートしている。	特になし。	
	3		■口腔保健学科 クラス担任が中心となり、相談体 制を整備しているが、対応が難し い場合は学科会において指導方針 を協議している。	特になし。	
	4		■日本語学科 担任が学生の様子を観察し、状況 に応じて面談などでカウンセリング を行っている。言語的な問題が ある場合は、ネイティブスタッフ が通訳に入り、対応している。	特になし。	
	3		■国際教養コミュニケーション学科 担任が学生の状況に応じて面談を 行っている。担任個人で対応でき ない場合は、学科長、校長を含め た面談を行っている。	特になし。	

5-18-2 留学生に対する相談体制を整備しているか	4	異文化社会での学校生活を支援するためのネイティブ担当者を置くなどの整備を行うことが重要であると考えている。	<b>■介護福祉学科</b> 留学生生活指導委員会に定期的に参加している。担任と留学生係が連携して対応にあたっている。	留学生に関しては、日本語能力が低い状態で入学し、教育が必要なため、国際教養コミュニケーション学科との連携を図り、適切な指導を行っている。	留学生生活指導委員会 規程 留学生生活指導委員会 議事録
	—		<b>■鍼灸学科</b> <b>■柔整学科</b> 現在、留学生は在籍していない。	特になし。	
	4		<b>■口腔保健学科</b> 留学生生活指導委員会に定期的に参加し、他学科や留学生係との情報共有を図った。ただ一人の留学生を無事卒業させ国家試験にも合格させることができた。	特になし。	留学生生活指導委員会 規程 留学生生活指導委員会 議事録
	4		<b>■日本語学科</b> 留学生生活指導委員会を定期的に開催している。担任及び留学生係が日常生活支援を行っている。日本語学科教員と留学生係は十分な連携が取れている。	特になし。	
	3		<b>■国際教養コミュニケーション学科</b> 留学生生活指導委員会を定期的に開催し、留学生係に支援を依頼している。それにともない、留学生係と教員の連携を密に取るよう努めている。大学進学への準備という意味合いを持つ学科なので、介入し過ぎないように、自主性を育む方針をとっている。どの程度の介入が適切かを検討するために、専任教員の相談体制の強化を図っている。	特になし。	

※点検進捗 4：優れている 3：適切である 2：やや不適切 1：改善が必要

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>クラス担任が学生相談を日常的に行い、サポートを行っている。  全学的な問題は学生部が扱う。  留学生の日常生活支援は、留学生係が主に担当し、定期的に留学生生活指導委員会を開き、協議している。</p>	<p>特になし。</p>

最終更新日付	2020年7月31日	記載責任者	尾野 龍一
--------	------------	-------	-------

## 5-19 学生生活

小項目	※点検 進捗	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
5-19-1 学生の経済的側面に対する支援体制を整備しているか	3	経済的困難を抱える学生は年々増加傾向にある。対象となる学生については、個々の状況に応じて対応することが重要であると考えている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>■介護福祉学科</li> <li>■鍼灸学科</li> <li>■柔整学科</li> <li>■口腔保健学科</li> </ul> 特待生入試制度を設け、最大 50 万円の学費を免除している。経済的困難と認定した場合、授業料分納・延納制度を適用している。学生慶弔見舞い規程(災害時・傷病時等)を設けている。教務部(担任)と事務部を中心に公的奨学金・修学資金の相談や申し込みなどを行っている。また、家庭の経済状況について、必要に応じて、保護者・学生と面談を行っている。	経済的に困難な学生は学費のみならず、生活も困窮している場合がある。そのような学生に対し、一定の基準を満たすことを条件に、本校独自の奨学金制度を設けることを検討する必要がある。 <b>【基準(例)】</b> 授業態度、学習意欲、クラス貢献度、授業成績等を判断材料とする。	学生募集要項 授業料納入規則
	3		<ul style="list-style-type: none"> <li>■日本語学科</li> <li>■国際教養コミュニケーション学科</li> </ul> 経済的に困難と認定した場合、授業料分納・延納制度を適用している。教務部(担任)と事務部を中心に公的奨学金・修学資金の相談や申し込みなどを行っている。		

5-19-2 学生の健康管理を行う体制を整備しているか	3	教育機関として、健康管理を行う体制の整備は必要不可欠であると考えている。	<p>■全学科</p> <p>日常的な健康管理を行うとともに、年に1度定期健康診断を実施している。喫煙・性感染症に関する講習会も実施し、健康管理に関心を持たせるように努めている。また、留学生に対しては、熱中症や感染症が流行する時期に易しい日本語で指導・掲示を行い、注意喚起している。体調不良の学生が利用できる保健室を設けており、IGLグループ内にクリニックを有している。</p>	保健室の利用に関しては各学科で対応を行っている。IGLグループ内クリニックとの連携を強化する。	行事予定
5-19-3 学生寮の設置などの生活環境支援体制を整備しているか	3	学生寮等を設けて生活環境を確保することは必要であると考えている。	<p>■全学科</p> <p>専用の女子寮、学校が借り上げを行っている男子寮(留学生対象)を設けている。不足する場合は、不動産業者を紹介するなどの支援を行っている。留学生対象寮は定期的に巡回し、生活指導を行っている。</p>	専用の男子寮の設置についても今後検討を重ねていく。	学生寮案内チラシ
5-19-4 課外活動に対する支援体制を整備しているか	3	多様・多忙な学生生活に潤いを与える課外活動を充実させる事が望ましいと考えている。	<p>■介護福祉学科</p> <p>■鍼灸学科</p> <p>■柔整学科</p> <p>■口腔保健学科</p> <p>柔道部・中国武術部・サッカー部・野球部・バスケットボール部・ゴルフ部が顧問のもとに活動を行っている。大会参加に対し、教職員がサポートを行っている。</p>	特になし。	特になし

	4		<ul style="list-style-type: none"> <li>■日本語学科</li> <li>■国際教養コミュニケーション学科</li> </ul> 年に数回、授業活動に外部からゲストを招いたり、校外学習を行ったりして、教室で学んだことを実践する機会を設けている。		
--	---	--	--	--	--

※点検進捗 4：優れている 3：適切である 2：やや不適切 1：改善が必要

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学生全員が健康で豊かな学生生活を送ることができるよう、さらにきめ細かい支援体制を整えることが課題である。	特になし。

最終更新日付	2020年7月31日	記載責任者	尾野 龍一
--------	------------	-------	-------

## 5-20 保護者との連携

小項目	※点検進捗	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
5-20-1 保護者との連携体制を構築しているか	3	学修支援・生活指導等の面で保護者との連携は不可欠であると考えている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>■介護福祉学科</li> <li>■鍼灸学科</li> <li>■柔整学科</li> <li>■口腔保健学科</li> </ul> 普段から保護者との信頼関係を構築していく。必要に応じて、個別に保護者と電話または面談し、面談記録を作成し学科で共有している。また、保護者との連携体制を構築するため、保護者会を実施した。	学生のおよそ半数にも見逃さず、問題が起こる前から保護者との連携体制を構築する。また、些細なことでも保護者からの相談を受けられるように、保護者にアドレスの登録を依頼し、メールでのやり取りができるようにしている。	成績通知表の送付
	3		<ul style="list-style-type: none"> <li>■日本語学科</li> </ul> 留学生の日常の様子は留学生用の Facebook ページで公開し、母国の保護者も閲覧できる環境を整えている。留学生が問題を抱えている場合は、早い段階で保護者連絡を行うようにしている。	特になし。	生活指導記録 (infoclipper)
	3		<ul style="list-style-type: none"> <li>■国際教養コミュニケーション学科</li> </ul> 留学生に対しては、生活態度や学費の面で問題がある場合のみ、留学生係を通じて、保護者への連絡を行っている。	今年度は、それほど保護者連絡をする機会はなかったが、今後も時期を逃さず、保護者連絡を行いたい。また、悪いことだけでなく、よいことでも保護者に伝える術はないか検討したい。	

※点検進捗 4：優れている 3：適切である 2：やや不適切 1：改善が必要

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
入学前から卒業時まで、保護者との密接な連携体制を維持・強化していく。	特になし。

最終更新日付	2020年7月31日	記載責任者	尾野 龍一
--------	------------	-------	-------

## 5-21 卒業生・社会人

小項目	※点検 進捗	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
5-21-1 卒業生への支援体制を整備しているか	3	同窓会・業界等との連携を密にして、卒業生への支援体制を整備することは重要であると考えている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>■介護福祉学科</li> <li>■鍼灸学科</li> <li>■柔整学科</li> <li>■口腔保健学科</li> </ul> 同窓会が組織されている。卒業生の教員が中心となって活動しており、各業界内の最新状況を把握している。卒業生にも図書室を開放し、本や資料の貸し出しも行っている。	同窓会との共催イベントの回数を増やすなど、日常的に連携を深めていく。同窓会費納入方法について、検討が必要である。	同窓会 HP 同窓会会則
	3		<ul style="list-style-type: none"> <li>■日本語学科</li> </ul> 卒業生は基本的に進学先での支援を受けることになる。	卒業生の進学先である大学等と連絡を取り、少しでも多くの卒業生の状況を把握する。	特になし
	4		<ul style="list-style-type: none"> <li>■国際教養コミュニケーション学科</li> </ul> 個人的に問い合わせがあった場合は教員が対応を行う。卒業生の動向を知るために、進学先との連携強化を図っている。	複数件の相談を受けることがあり、その都度対応を行っている。	
5-21-2 産学連携による卒業後の再教育プログラムの開発・実施に取り組んでいるか	3	卒業生に対して再教育を行うことは、卒業生・在校生双方にとって、将来展望を持ち、また、安心感を持つ機会となるため、関係業界との連携は重要であると考えている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>■介護福祉学科</li> <li>■鍼灸学科</li> <li>■柔整学科</li> <li>■口腔保健学科</li> </ul> 卒業生が学校を訪ねて来たときなどに、講習会の情報等を周知している。同窓会主催のスキルアップセミナーなどの研修会を支援・後援し、卒業生のキャリアアップの積極的な支援を行っている。	教育課程編成委員会からのご意見を活用して、卒業生の再教育の場を増やしていく。同窓会主催の講習会について周知徹底し、より多くの卒業生が参加できるように工夫する。	介護実習の要綱 社会福祉現場実習の要綱

	—		<ul style="list-style-type: none"> <li>■日本語学科</li> <li>■国際教養コミュニケーション学科</li> </ul> 卒業生が社会人の再教育プログラムの用件に該当するケースがないため、設けていない。	特になし。	特になし
5-21-3 社会人のニーズを踏まえた教育環境を整備しているか	3	学校の教育機能を社会人に提供する事は望ましい。IGLブランドの構築につながり、ひいては本校への学生募集にも寄与することになるため、重要であると考えている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>■介護福祉学科</li> <li>■鍼灸学科</li> <li>■柔整学科</li> <li>■口腔保健学科</li> </ul> 社会人に対して既修得科目の認定を行っている。	特になし。	特になし
	—		<ul style="list-style-type: none"> <li>■日本語学科</li> <li>■国際教養コミュニケーション学科</li> </ul> 留学ビザでは社会人や就労学生を受け入れることがないため、設けていない。		

※点検進捗 4：優れている 3：適切である 2：やや不適切 1：改善が必要

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
教育の質やIGLブランドを高めるためにも、できるだけ多くの卒業生及び社会人に対する多角的なアプローチを継続的に展開していくことが望ましい。	本校は同窓会組織が機能しており、会員だけでなく、在校生においても様々な支援を積極的に行っている。

最終更新日付	2020年7月31日	記載責任者	尾野 龍一
--------	------------	-------	-------

## 基準 6 教育環境

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>「養成施設指導要領」・「専修学校設置基準」・「日本語教育機関の運営に関する基準」で義務づけられている施設・設備等は、法令等の基準通りに完備している。</p> <p>業界等のニーズに即した設備・備品等は、教育上必要不可欠なものについて精査し、耐用年数を超えた施設・設備等の更新を中期計画に基づき、順次行っている。</p> <p>教育目標の実現を図るとともに、学生の満足度を高めるために、経年劣化による施設・設備の補修・更新を計画的に行う。</p>	<p>設備・教育機器は業界等のニーズに即応し、整備することが必要不可欠であるが、限られた財源から教育上必要不可欠なもの、耐用年数を超えた施設・設備を精査し、更新を行う必要がある。</p> <p>今後は、政府の取り組みの一つであるICT教育の流れに乗り遅れないよう、ICT環境整備・ICTを活用した授業の展開の整備が急務である。</p> <p>2020年1月に発生した、新型コロナウイルスの感染拡大という未知の感染症等の有事における危機管理の初動対応が学生・保護者への信頼に繋がる。今後も感染症や自然災害など、不測の事態にいち早く対応するため、正確な情報収集を行い、迅速な情報発信を行う。</p>

最終更新日付	2020年7月31日	記載責任者	永見 晴美
--------	------------	-------	-------

## 6-22 施設・設備等

小項目	※点検進捗	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
6-22-1 教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具等を整備しているか	3	関係法令で定められた施設・設備・教育用具等を備え、各学科の教育目標達成に寄与するように整備することが重要であると認識している。教育機器等については、時代に即応した整備が不可欠であるが、同時にそれを適切に活用、管理する体制を確立することも必要と考える。	<p>中期計画に基づき、計画的な機器・設備の入れ替え、修繕を行った。</p> <p>① 空調機入れ替え 5階7教室</p> <p>② 口腔保健学科 マナボット新規購入 機器備品修繕</p> <p>③ パソコン教室 パソコン入替</p> <p>④ プロジェクター更新 3C・4B</p> <p>⑤ 口腔保健学科 ・超音波スケーラー ・口腔内カメラ ・バクテリアセルフチェッカー ・マナボット修繕</p> <p>⑥ 電話設備更新工事</p>	想定外の修繕や細部の老朽化対策を並行して計画し、実行していく必要があるため、経営企画室や専門的な視点を持つ、グループ内の営繕部門からの指導・助言に基づいて進めていく。	養成施設等の設置基準資料 中期計画

※点検進捗 4：優れている 3：適切である 2：やや不適切 1：改善が必要

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
設備・教育用具は業界等のニーズに即応し、整備することが必要不可欠である。教育に必要な機器備品は順次取り揃えている。	学生ファーストの視点で、施設・設備の計画的な更新を行い、良好かつ良質な学習環境の維持に努めていく。

最終更新日付	2020年7月31日	記載責任者	永見 晴美
--------	------------	-------	-------

## 6-23 学外実習・インターンシップ等

小項目	※点検 進捗	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
6-23-1 学外実習・インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか	3	学生が学んだことを発揮する場として、また、現場力・コミュニケーション能力養成の場として、大変重要である。	学外実習は法定実習だけでなく、他の実習についても教育課程上に位置づけられており、実習前に要綱等に評価基準を明示し、受入施設と綿密な打ち合わせを行っている。介護福祉学科は実習終了後に報告会を実施し、実習先からの参加者を交え、有意義な情報交換の機会を設けている。	引き続き、実習先との連携を強化し、課題や問題点の解決に向けて取り組んでいく。鍼灸・柔整学科は新カリキュラム施行にともなう実習先の新規開拓に、学科と同窓会をあげて精力的に取り組んだ。	行事予定 実習施設訪問指導報告書

※点検進捗 4：優れている 3：適切である 2：やや不適切 1：改善が必要

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学外実習は法令等の基準によって指定されているものをはじめ、教育目標達成、人材育成のために必要なものをカリキュラムに位置づけて実施している。鍼灸・柔整学科の新カリキュラム施行にともない、実習先の新規開拓を強化していく。	インターンシップは実施していない。 2019年度は、鍼灸学科の上海中医薬大学短期研修旅行を計画していたが、新型コロナウイルス感染症の影響に伴い中止した。

最終更新日付

2020年7月31日

記載責任者

永見 晴美

## 6-24 防災・安全管理

小項目	※点検進捗	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
6-24-1 防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか	3	消防署の指導のもと、自衛消防組織を編成し、火災・防災避難訓練を定期的実施することが重要であると考えている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>2019年5月14日 通報訓練・避難訓練を実施。</li> <li>2019年12月19日、安佐南消防署員立ち会いのもと、通報訓練・避難訓練・消火訓練を実施。</li> </ul>	各種訓練、各種設備点検を定期的に行い、有事に備える。	消防計画 自衛消防隊総合訓練実施計画
6-24-2 学内における安全管理体制を整備し、適切に運用しているか	3	安全管理体制の整備は学生及び教職員の安全を守るために重要であると考えている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>2019年4月9日(月) 沼田自動車学校教官による新入生対象「交通安全講習会」を実施。</li> <li>2019年8月29日(水) 安佐南警察署員による留学生対象「防犯・安全講習会」を実施。</li> <li>2019年10月23日(火)、11月6日(火) 沼田自動車学校にて日本語学科1年生対象「自転車安全運転講習会」を実施。</li> <li>新型コロナウイルス感染症への対応 対策本部設置・行事、出張の中止・注意喚起</li> </ul>	学生の安全確保、教職員の危機管理について、さらなる安全管理体制の整備に取り組む。また、留学生の増加にともない、日本の交通ルール・マナー等の指導を強化する。	学生・生徒災害傷害保険

※点検進捗 4：優れている 3：適切である 2：やや不適切 1：改善が必要

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
消防設備法定点検と防災訓練を実施した。 定期的な施設・設備の点検、使用方法の再確認を行い、有事に備えていく。	特になし。

最終更新日付	2020年7月31日	記載責任者	永見 晴美
--------	------------	-------	-------

## 基準 7 学生の募集と受け入れ

大項目総括						特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）																														
<p>・医療福祉 4 学科の募集結果</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>学科</th> <th>口腔保健</th> <th>介護福祉</th> <th>鍼灸</th> <th>柔整</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>定員</td> <td>50</td> <td>80</td> <td>30</td> <td>30</td> <td>190</td> </tr> <tr> <td>目標</td> <td>35</td> <td>28</td> <td>21</td> <td>21</td> <td>105</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>31</td> <td>19</td> <td>16</td> <td>9</td> <td>75</td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td>88.6%</td> <td>67.9%</td> <td>76.2%</td> <td>42.9%</td> <td>71.4%</td> </tr> </tbody> </table> <p>入学者は継続して減少しており、募集方針・戦略・体制の根本的な見直しが必要である。そのため、今期半ばより大手広告代理店の博報堂とコンサルティングも含めた募集支援の契約を交わし、市場調査に始まり、令和 2 年度に本格始動する募集方針・戦略の練り直しに取り掛かった。</p>						学科	口腔保健	介護福祉	鍼灸	柔整	合計	定員	50	80	30	30	190	目標	35	28	21	21	105	実績	31	19	16	9	75	達成率	88.6%	67.9%	76.2%	42.9%	71.4%	<p>・高等学校とのリレーション、校内・会場型ガイダンスでの直接接触、媒体業者を経由した情報発信～資料請求での接触、ホームページからの資料請求などによる接触、オープンキャンパスでの接触+体験の全てのプロセスの見直しを行い、目標設定を行った。</p> <p>・高等学校とのリレーションにおいては、成り行きでの訪問、会える先生との面会程度の接点となっていたため、過去 10 年間の実績を基に高校のリストを更新、1～6 のランクを設定し、12 月に 63 校の集中訪問を実施、本校との関係性を確認した。</p> <p>その結果、令和 2 年度に向けての重要度別高校ランクを、最重要パートナー校（3 校）、重点実績校（7 校）、連携強化校（12 校）、関係構築促進校（55 校）、進路ニーズの要確認校（16 校）、募集活動対象外校（44 校）の 6 段階に設定し、指定校推薦の戦略的認定も行うこととした。</p>
学科	口腔保健	介護福祉	鍼灸	柔整	合計																															
定員	50	80	30	30	190																															
目標	35	28	21	21	105																															
実績	31	19	16	9	75																															
達成率	88.6%	67.9%	76.2%	42.9%	71.4%																															
<p>・留学生の募集結果</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>学科</th> <th>日本語 4 月生</th> <th>日本語 10 月生</th> <th>国際教養 コミュニ ケーション</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>定員</td> <td>60</td> <td>60</td> <td>60</td> <td>180</td> </tr> <tr> <td>目標</td> <td>60</td> <td>60</td> <td>60</td> <td>180</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>53</td> <td>41</td> <td>53</td> <td>147</td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td>88.3%</td> <td>68.3%</td> <td>88.3%</td> <td>81.7%</td> </tr> </tbody> </table> <p>日本語学科のベトナムの留学生募集は順調に推移しているが、定員充足には至っていないため、大学進学、日本企業・日系企業就職を視野に入れた国際教養 C 学科までの 2 年半・3 年間の本校留学計画を推進し、4 月生の増員を図った。一方で、中国からの留学ニーズは確たるものがなく、国際介護コースの留学資金面も含めたコースの確定が必要である。</p>						学科	日本語 4 月生	日本語 10 月生	国際教養 コミュニ ケーション	合計	定員	60	60	60	180	目標	60	60	60	180	実績	53	41	53	147	達成率	88.3%	68.3%	88.3%	81.7%	<p>・ガイダンスでの直接接触を重視し、ガイダンス会社主要 3 社に上記の最重要パートナー校から関係構築促進校までの高校の校内ガイダンスの設定の依頼を具体的に行った。</p> <p>・ホームページ、パンフレット等の広報ツールは、博報堂の市場調査に基づき刷新にかかり、年度末に学校とグループの認知を目的としたテレビ CM、You Tube 動画の制作を行い、リリースを開始した。</p> <p>・令和 2 年度の活動に向けて、博報堂のサポートを受け、年度内に資料請求・ガイダンス・ホームページ・オープンキャンパスの接触 KPI とともに募集施策をまとめ、2020 年度経営戦略方針の策定につないだ。</p>					
学科	日本語 4 月生	日本語 10 月生	国際教養 コミュニ ケーション	合計																																
定員	60	60	60	180																																
目標	60	60	60	180																																
実績	53	41	53	147																																
達成率	88.3%	68.3%	88.3%	81.7%																																

最終更新日付	2019 年 7 月 31 日	記載責任者	小田 聡
--------	-----------------	-------	------

## 7-25 学生募集活動は、適切に行われているか

小項目	※点検進捗	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
7-25-1 高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取り組んでいるか	1	本校の教育理念・教育活動への理解のため積極的に取り組む。	高等学校訪問、進路指導担当教諭及び3学年担任に対する、各種ガイダンスやオープンキャンパス参加生徒の情報共有を行い、また、本校各学科の情報を提供し、入学予定者の本校に対する関心向上に努める。	各高校の進路指導の性向や時期を明確にし、関係性・志望度合いに応じた情報提供・連携を図る。 実際の進路選定の材料となる制度・情報を設定し、生徒の進路選定の後押しを高校に依頼する。	ホームページ パンフレット 学生募集要項 各種広報ツール
7-25-2 学生募集活動を適切かつ効果的に行っているか	1	各職業・資格の志望者、さらには医療福祉に関する職業の志望者に対し、業界・就職先・経済情勢も含めた情報提供を行い、適切な進路選定の支援を行う。	会場型・校内型ガイダンスに参加した高校生をオープンキャンパスに誘導し、教員による体験授業と学科説明での学校と資格・職業の情報提供、個別の参加者フォローの実施。	調査・客観情報に基づくターゲットの設定、競合・市場性も併せたセグメントの設定と方針・戦略設定、KPI・KGIの設定、行動計画と役割分担の設定。	ホームページ パンフレット 学生募集要項 各種広報ツール

※点検進捗 4：優れている 3：適切である 2：やや不適切 1：改善が必要

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
ターゲット、セグメント、方針、戦略、KPI・KG、計画全てにおいて新たに設定し、仕切り直しが必要。	博報堂と本部との連携プロジェクトにより、認知の圧倒的向上の実現とともに、令和2年度の募集に向けて、募集施策をまとめ、2020年度経営戦略方針の策定につなぐことができた。

最終更新日付	2019年7月31日	記載責任者	小田 聡
--------	------------	-------	------

## 7-26 入学選考

小項目	※点検進捗	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
7-26-1 入学選考基準を明確化し、適切に運用しているか	3	選考基準を明確にして、選考を行うことが必要と考えている。	入試に関わる案件は、教務・入学試験委員会にて協議し、高校生・社会人の実情に即した入学基準になるように整備し、適切に運用している。	社会のニーズに応じた入試区分や選考基準の改編を検討し、志願者の選択肢を広げる。	学生募集要項 早期エントリーシート
7-26-2 入学選考に関する実績を把握し、授業改善等に活用しているか	3	入学選考での学生実態等を把握して授業改善に活用することが必要と考えている。	合格者に対し、授業予習の位置づけとして入学前学習課題を実施している。入学前の不安を和らげることを目的とした取組みは、入学後のスムーズな学習に繋がっている。	留年・中途退学者の抑止に繋げるため、学生個別の学習上の課題や学習意欲を早期に把握し、学力レベルに応じた個別のフォローが必要となる。	入学前サポートプログラム資料

※点検進捗 4：優れている 3：適切である 2：やや不適切 1：改善が必要

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
入学選考データや入学前サポートプログラムを学科ごとに共有・活用し、入学から卒業までの修学を円滑かつ効率的に促進する。	入学選考データや入学前サポートプログラムデータを有効活用し、入学後の指導において確実に反映させ、極力留年・中途退学者を出さないように、個別対応を強化していく。

最終更新日付	2020年7月31日	記載責任者	永見 晴美
--------	------------	-------	-------

## 7-27 学納金

小項目	※点検進捗	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
7-27-1 経費内容に対応し、学納金を算定しているか	3	教育活動実態に合わせた学納金を算定することが重要であると考えている。	学納金は原価をもとに算定し、他校の実態と社会情勢を踏まえて検討し、校務運営会議での決定を受け、評議員会・理事会の承認を得ている。	特になし。	学生募集要項
7-27-2 入学辞退者に対し、授業料等について適正な取扱を行っているか	3	入学辞退者について募集要項に記載し、授業料等について適正な取り扱いを行うことを方針としている。	入学前月末までに意思を示した辞退者に対し、授業料の返還を行っている。	特になし。	学生募集要項 授業料納入規則

※点検進捗 4：優れている 3：適切である 2：やや不適切 1：改善が必要

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>教育活動の実態に即した学納金の算定を行っていく。 学納金は原価をもとに算定し、他校の実態と社会情勢を踏まえたうえで納得感がある金額を検討し、校務運営会議での決定を受け、評議員会・理事会の承認を得ている。</p>	<p>授業料については、年間2回分割納入方式を採用し、延納・分納の徴収猶予制度を設け、個々の状況に応じた対応を行っている。 2019年9月には、経済的な理由により進学が困難な学生の経済的負担を軽減することを目的とした「高等教育の修学支援新制度」の対象校として認定された。</p>

最終更新日付	2020年7月31日	記載責任者	永見 晴美
--------	------------	-------	-------

## 基準 8 財務

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）																								
<p>定員未充足による非常に厳しい経営状況が続いている。 収入を外国人留学生の入学者数増加に依存することなく、日本人学生の募集活動を強化し、安定的な財源確保に全力を尽す。</p> <p>年度別の収支予算達成のための指標を数値化・具体化し、経営改善体制の基礎づくりを行う。</p>	<p><b>【学科別在籍者数】</b> ※2019年5月1日現在</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tbody> <tr> <td style="width: 70%;">■介護福祉学科</td> <td style="width: 10%; text-align: right;">42名</td> <td style="width: 20%; text-align: right;">（総定員 160名）</td> </tr> <tr> <td>■鍼灸学科</td> <td style="text-align: right;">50名</td> <td style="text-align: right;">（総定員 90名）</td> </tr> <tr> <td>■柔整学科</td> <td style="text-align: right;">58名</td> <td style="text-align: right;">（総定員 90名）</td> </tr> <tr> <td>■口腔保健学科（女子のみ募集）</td> <td style="text-align: right;">101名</td> <td style="text-align: right;">（総定員 150名）</td> </tr> <tr> <td>■日本語学科（4月入学生）</td> <td style="text-align: right;">126名</td> <td style="text-align: right;">（総定員 100名）</td> </tr> <tr> <td>■日本語学科（10月入学生）</td> <td style="text-align: right;">31名</td> <td style="text-align: right;">（総定員 100名）</td> </tr> <tr> <td>■国際教養コミュニケーション学科</td> <td style="text-align: right;">44名</td> <td style="text-align: right;">（総定員 40名）</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: right;"><u>計 452名</u></td> <td style="text-align: right;">（総定員 730名）</td> </tr> </tbody> </table> <p>学校法人が経営改善の具体的指針として、これまでの中期計画に変わり、2017年12月に中長期基本計画（2018～2022年度／5年間）を策定した。</p> <p>教職員が2019年度の収支予算を正確に把握するため、経費の費目ごとに学科別の経費実績の按分を行い、2020年度の根拠ある予算策定と2020年度より、日次・月次の予実管理を実行することとした。</p>	■介護福祉学科	42名	（総定員 160名）	■鍼灸学科	50名	（総定員 90名）	■柔整学科	58名	（総定員 90名）	■口腔保健学科（女子のみ募集）	101名	（総定員 150名）	■日本語学科（4月入学生）	126名	（総定員 100名）	■日本語学科（10月入学生）	31名	（総定員 100名）	■国際教養コミュニケーション学科	44名	（総定員 40名）		<u>計 452名</u>	（総定員 730名）
■介護福祉学科	42名	（総定員 160名）																							
■鍼灸学科	50名	（総定員 90名）																							
■柔整学科	58名	（総定員 90名）																							
■口腔保健学科（女子のみ募集）	101名	（総定員 150名）																							
■日本語学科（4月入学生）	126名	（総定員 100名）																							
■日本語学科（10月入学生）	31名	（総定員 100名）																							
■国際教養コミュニケーション学科	44名	（総定員 40名）																							
	<u>計 452名</u>	（総定員 730名）																							

最終更新日付	2020年7月31日	記載責任者	永見 晴美
--------	------------	-------	-------

## 8-28 財務基盤

小項目	※点検進捗	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
8-28-1 学校及び法人運営の中長期的な財務基盤は安定しているか	2	法人全体の財務基盤を安定させるため、定員に見合う入学者数の確保に尽力している。	学生募集戦略を強化し、教職員一丸となって学生確保に取り組んだ。	収入を外国人留学生の入学者数増加に依存することなく、日本人学生の募集活動を強化し、安定的な財源確保に全力を尽す。	中長期基本計画 財務関係書類
8-28-2 学校及び法人運営にかかる主要な財務数値に関する財務分析を行っているか	2	安定的な学校運営を遂行するうえで、財務分析を行い、部門ごとにコストの精査を図ることが不可欠と考えている。	部門ごとの収支状況を教職員全体に向けて周知し、改善を促している。あわせて、コストの精査を行い、コスト意識を高めている。	年度別の収支目標達成のための指標を数値化し、各部門が達成に向けた具体的なアクションを起こしやすい環境を整える。	財務関係書類

※点検進捗 4：優れている 3：適切である 2：やや不適切 1：改善が必要

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
中長期的な学校運営を行うために、法人本部、本部経営企画室と連携して財務に関する方針を検討していく必要がある。	経営の効率化による財政基盤の立て直しに向け、教職員一丸となって取り組んでいく。

最終更新日付	2020年7月31日	記載責任者	永見 晴美
--------	------------	-------	-------

## 8-29 予算・収支計画

小項目	※点検進捗	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
8-29-1 教育目標と整合した単年度予算・収支計画を策定しているか	3	教育目標と整合した事業計画を策定し、その計画に基づいた単年度予算・収支計画を策定すべきであると考えている。	2018年度から5年間の中長期基本計画を策定し、遂行途上である。	個々の教職員が経営を意識した予算編成を行う必要がある。	事業計画
8-29-2 予算及び計画に基づき、適正に執行管理を行っているか	2	事業計画に基づいた予算を策定し、適正に執行すべきであると考えている。	予算管理については、各部門で予実管理をする事で、教職員のコスト意識が高まった。	限られた財源を有効活用するため、事業の優先度・重要度を見極める必要がある。	経理規定

※点検進捗 4: 優れている 3: 適切である 2: やや不適切 1: 改善が必要

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
教育目標との整合性を精査したうえで予算計画を立案し、適正かつ適時の予算執行ならびに執行管理を行う。	

最終更新日付	2020年7月31日	記載責任者	永見 晴美
--------	------------	-------	-------

## 8-30 監査

小項目	※点検進捗	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
8-30-1 私立学校法及び寄附行為に基づき、適切に監査を実施しているか	4	寄付行為等に基づき、監事による会計監査を適切に実施するべきと考えている。	会計監査については、法人本部の主管で、公認会計士による外部監査、及び監事による内部監査を適切なスケジュールで実施している。指摘事項が発生した場合、必要かつ適切な是正措置を早急に講じている。	特になし。	財務関係書類

※点検進捗 4：優れている 3：適切である 2：やや不適切 1：改善が必要

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
会計監査は、公認会計士による外部監査、及び監事による内部監査を適切なスケジュールで実施しており、指摘事項が発生した場合には必要かつ適切な是正措置を早急に講じている。	特になし。

最終更新日付	2020年7月31日	記載責任者	永見 晴美
--------	------------	-------	-------

## 8-31 財務情報の公開

小項目	※点検 進捗	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
8-31-1 私立学校法に基づく財務情報公開体制を整備し、適切に運用しているか	3	私立学校法に基づく財務情報公開体制を整備し、適切に運用することは重要であると考えている。	私立学校法に基づく財務情報公開体制を整備し、学校ホームページに「財務に係わる情報」として公開している。情報公開希望者には校内での閲覧及び写しの交付ができるよう公開対象文書を整備している。	ホームページ等を活用した公開方法については、今後も工夫を重ねていく必要がある。	学校ホームページ 校内閲覧用公開対象文書

※点検進捗 4：優れている 3：適切である 2：やや不適切 1：改善が必要

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
私立学校法に基づく財務情報公開体制を整備し、学校ホームページに「財務に係わる情報」として公開している。 <b>【公開場所】</b> 学校 HP⇒「情報公開」⇒「組織・財務情報」⇒「財務に係る情報」	特になし。

最終更新日付	2020年7月31日	記載責任者	永見 晴美
--------	------------	-------	-------

## 基準 9 法令等の遵守

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>専門学校の教育に関わる各種の法令及び専修学校設置基準、また、法令等の指定学科にあってはその指定に関わる基準等を遵守し、適切な運営をしている。</p> <p>各種ハラスメント防止のための規程を設け、運用している。</p> <p>教職員に対しては、例年、年度始めの教職員会議において、法令遵守に関する啓発を行っている。適切な学校運営を行うための細則や規程類を整備しており、周知及び適切な運用を推進している。</p> <p>在学生に対しては、例年、年度始めのオリエンテーションにおいて、「学生便覧」を配布し、学修に関する諸手続、学生生活に係る法令を遵守するよう周知している。</p> <p>個人情報については、その重要性を十分に認識して、学校法人全体・IGLグループ全体の取り組みとして各種情報の保護を図っている。</p> <p>本校では、2006年12月に自己点検・自己評価委員会規程を定め、自己点検・自己評価を行い、2015年度からは私立専門学校等評価研究機構の評価基準に従って点検・評価を行っている。</p> <p>2013年12月より文部科学省ガイドライン及び職業実践専門課程に要求されている全項目について、情報公開を開始した。</p>	<p>ICT教育への強化に伴い、学生・教職員共に情報セキュリティの知識を高め、ソーシャルメディアの取扱いに最新の注意を払う必要がある。</p>

最終更新日付

2020年7月31日

記載責任者

永見 晴美

## 9-32 関係法令、設置基準等の遵守

小項目	※点検進捗	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
9-32-1 法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか	4	専門学校教育に関する各種法令及び専修学校設置基準、また、法令等の指定学科においては、その指定に関わる基準等を遵守し、適切な運営をすることが義務であると考えている。	関係法令や設置基準等を遵守し、適切な学校運営を行っている。	特になし。	学生便覧

※点検進捗 4：優れている 3：適切である 2：やや不適切 1：改善が必要

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
本校は、専門学校教育に関する各種法令及び専修学校設置基準、また、法令等の指定学科においては、その指定に関わる基準等を遵守し、適切な学校運営を行っている。 適切な学校運営を行うための細則や規程類についても整備を行い、周知及び適切な運用を推進している。 また、各種ハラスメント防止のための規程を設け、運用している。	特になし。

最終更新日付	2020年7月31日	記載責任者	永見 晴美
--------	------------	-------	-------

## 9-33 個人情報保護

小項目	※点検進捗	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
9-33-1 学校が保有する個人情報保護に関する対策を実施しているか	3	個人情報については、その重要性を十分に認識して、学校法人だけでなく、IGLグループ全体の取組みとして各種情報の保護を図る。	学校法人だけでなく、IGLグループ全体の取組みとして各種情報の保護を図っている。	学校内の個人情報が厳密に保護されているか、常に点検する必要がある。	個人情報に関する規程

※点検進捗 4：優れている 3：適切である 2：やや不適切 1：改善が必要

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
「個人情報保護に対する基本方針」を校舎内に掲示するとともに、在学生に対しては、例年、年度始めのオリエンテーションにおいて啓発の機会を設けている。	学外実習が定められている学科については、事前オリエンテーションにおいて、個人情報の取り扱いについての指導を適切に行っている。学生には、オリエンテーションだけでなく定期的な周知が必要である。

最終更新日付

2020年7月31日

記載責任者

永見 晴美

## 9-34 学校評価

小項目	※点検進捗	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
9-34-1 自己評価の実施体制を整備し、評価を行っているか	3	校長を中心に項目ごとに担当責任者が自己評価を行い、次年度以降の指針にすることとしている。	自己点検・自己評価委員会規程を定め、自己点検・自己評価を行っている。	教職員全員が自己点検・自己評価に対する意識をさらに高めていく必要がある。	学校ホームページ
9-34-2 自己評価結果を公表しているか	3	自己評価は社会に向けて広く公表することが重要と考えている。	ホームページで公表している。	特になし。	学校ホームページ
9-34-3 学校関係者評価の実施体制を整備し、評価を行っているか	3	学外関係者による「学校関係者評価委員会」で評価を行い、学校改善に取り組むことは重要と考えている。	評価結果による改善事項に対し、迅速に取り組んでいる。	特になし。	学校関係者評価報告書
9-34-4 学校関係者評価結果を公表しているか	3	学校関係者評価結果を公表する必要があると考えている。	ホームページで公表している。	特になし。	学校ホームページ

※点検進捗 4：優れている 3：適切である 2：やや不適切 1：改善が必要

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
2015年度からは私立専門学校等評価研究機構の評価基準に従って点検・評価を行い、年間2回の学校関係者評価委員会を開催しているが、評価結果の公表についての取り組みを強化していく必要がある。	自己評価・学校評価の委員会開催時期や体制について、改善を行う。

最終更新日付	2020年7月31日	記載責任者	永見 晴美
--------	------------	-------	-------

<b>9-35 教育情報の公開</b>
---------------------

小項目	※点検進捗	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
9-35-1 教育情報に関する情報公開を積極的に行っているか	4	入学希望者、在校生とその保護者、関係業界等に対する教育情報の提供は重要であると考えている。	学校案内パンフレット・ホームページを中心に SNS を積極的に活用した教育情報の公開・提供を行っている。	学生・保護者の視点に立った教育情報をわかりやすく提供する必要がある。	学校ホームページ

※点検進捗 4：優れている 3：適切である 2：やや不適切 1：改善が必要

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
職業実践専門課程の規程に基づいた情報公開を行っている。 入学希望者、在校生とその保護者、関係業界等に対し、今後もわかりやすい教育情報の公開・提供を積極的に行っていく。	特になし。

<b>最終更新日付</b>	2020年7月31日	<b>記載責任者</b>	永見 晴美
---------------	------------	--------------	-------

## 基準 10 社会貢献・地域貢献

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>地域自治会、子ども会からの依頼に基づく行事支援、同窓会主催の研修会を学校施設内外で開催するなど、地域、関係業界団体に対し、積極的に協力をしている。</p> <p>日本語学科等で学ぶ留学生と日本人学生が母国文化を尊重しながら、ランチ交流会など、本校の特色を生かした国際交流を日常的に行っている。</p> <p>介護福祉学科においては実習先からのボランティア依頼を積極的に支援・推進している。鍼灸学科・柔整学科は各種スポーツ大会に参加して救護活動を行っている。</p>	<p>特になし。</p>

最終更新日付	2020年7月31日	記載責任者	尾野 龍一
--------	------------	-------	-------

## 10-36 社会貢献・地域貢献

小項目	※点検進捗	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
10-36-1 学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4	学校法人の性質上、社会や地域に貢献することが義務であると考えている。	地域自治会、子ども会からの依頼に基づく行事支援、同窓会主催の研修会を校外外で、積極的に実施している。「資格教養講座」として高等学校で資格内容の講義を行っている。学園祭を一般に開放し、地域との繋がりの場を設けている。	地域に根差した学校の役割として、学校の特性を生かした様々な取り組みで、積極的な社会貢献・地域貢献を今後も行っていく。また、地域の方に留学生を知っていただくことを地域共生の第一歩と位置づけ、今後も継続したい。	資格教養講座依頼書 研修・ボランティア活動・地域ならびに社会貢献活動実績リスト
10-36-2 国際交流に取り組んでいるか	4	留学生の受け入れは、国策でもあり、卒業後に日本や母国の日系企業で就職するために、職業教育機関である専門学校は役割を全うする必要があると考えている。	学内の留学生・日本人学生との国際交流をはじめ、ベトナム青少年センターの生徒との来日交流を学校全体で受け入れている。	国際的な学校として、より積極的に国際交流の取り組みを実施し、他校との差別化を図る。	留学生数データ 教育機関の選定結果 ランチ交流会チラシ

※点検進捗 4：優れている 3：適切である 2：やや不適切 1：改善が必要

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
福祉・医療の学校として、地域に根差した取り組みを行い、開かれた学校づくりを行っている。 多数の留学生が在籍している特色を生かした国際交流を実施している。	コロナ禍による活動方法を検討する必要がある。

最終更新日付

2020年7月31日

記載責任者

尾野 龍一

## 10-37 ボランティア活動

小項目	※点検進捗	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
10-37-1 学生のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っているか	3	福祉・医療系専門学校の強みを発揮する場としても、ボランティア活動への参加を奨励・支援することが重要と考えている。	介護福祉学科では、実習先からのボランティア依頼を積極的に受け入れている。鍼灸学科、柔整学科では、各種スポーツ大会等での救護活動・トレーナー活動をボランティアで行っている。口腔保健学科、国際教養コミュニケーション学科においては、地域クリーンボランティア活動を実施している。	ボランティア活動、地域貢献の機会を増やしていくため、学生に対し積極的に働きかけていく方針である。	研修・ボランティア活動・地域ならびに社会貢献活動実績リスト

※点検進捗 4：優れている 3：適切である 2：やや不適切 1：改善が必要

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学生の自主的なボランティア活動ならびに地域支援、関係業界団体への協力を今後も積極的に推進していく。	コロナ禍による活動方法を検討する必要がある。

最終更新日付	2020年7月31日	記載責任者	尾野 龍一
--------	------------	-------	-------